

「住み慣れたまちの地域福祉を考える地区懇談会パート2」の開催結果

12地区で開催し、288名の方が参加。

テーマ：隣近所で気にかかる人はいませんか？～ご近所パワーで地域を支える～

懇談会では各地区担当の地域包括支援センターから提出された「地域で孤立しそうな方」の事例について、「自分たちがどのような関わりを持てるか」をグループで検討した。

1 茅ヶ崎地区

日時 平成22年1月17日(日) 10:00～12:00

会場 茅ヶ崎地区コミュニティセンター

出席者 地区 26名 自治会連合会所属 6名

地区社会福祉協議会所属 3名

民生委員児童委員協議会所属 17名

行政等 8名 茅ヶ崎市保健福祉部 6名

地域包括支援センターゆず 1名

茅ヶ崎市社会福祉協議会 1名

概要 高齢単身独居(90歳)の女性が公的サービスやご近所の支援を受けながら、自宅で生活し続けている事例を検討。6グループから検討結果を発表。



グループ	大見出し	小見出し	出された意見・アイデア
1	相手の心を開かせる		<ul style="list-style-type: none"> ・オープンな気持ちにさせることができるか ・必ずしも本人でなくてもその家族との関係がもてるか ・遠慮もあるのでそれを取り除いてあげる ・心をひらいてもらえるような対応を心がける ・本人オープンな気持ちになれるか ・何をしてほしいか本人に聞いてみる
	現状がわからない		<ul style="list-style-type: none"> ・自分に社交性が無いため話しが続かない ・孤立しているかどうか ・ボランティア活動に理解が薄く協力者が少ない ・どんな支援があるか説明をする ・当地区はマンションが多いので面談するのも大変、拒否者が多い ・アパートの住人と会話が無い、話す機会がない ・アパートが多いので1人住まいの高齢者が多い ・個人情報にネック ・病気などしないと高齢でも介護申請をしない ・なるべく訪問して顔を覚えてもらう、心を閉ざしている人に ・個人情報のほき違いの人が多い
	近所付き合いが大切		<ul style="list-style-type: none"> ・話し相手になる ・あいさつをする ・近所の1人暮らしの方の見守りをしている ・今は何かあったら近所の人に関わるようである ・隣近所との付き合いが少ない ・近所との付き合い、甘えること ・道路で会うと話してこんで行く人もいる ・普段からのつきあいが大事 ・最近是谁が住んでいるかもわからない ・隣近所にどういう方が住んでいるか知らない ・訪問を頻繁にする ・みんなが自治会に入っていたら
2	地域に参加(ふれあい)		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に出てくれるようにうまく誘う ・地域のイベントに参加しておく
	近所の声かけ		<ul style="list-style-type: none"> ・地域で高齢単身の方に対し気にかけるような話し合いの場をもうけてみる ・子どもをとおして話しあえる相手をつくっていく
	近所づきあい		<ul style="list-style-type: none"> ・常にとり近所との交流をもっておく ・一番の問題は金銭管理、信頼できる人を見つける ・近所づきあいをあまり好まない人がいる ・近所の人を信頼している
	趣味をとおして		<ul style="list-style-type: none"> ・茅ヶ崎体操週一回、健康維持・安否確認、交流 ・趣味のグループの中で月に1回集まって本人のことを頼むグループをつくる ・民生委員を昔のイメージでとらえている方がいる

3	地域の方に興味を持つ	ご近所づきあいあいさつ!	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に入っているかどうか ・気安い近所、付き合いが重要なこと、「挨拶から」 ・ご近所同士でまず、あいさつから始めましょう ・地域の方々と絶縁していないことが地域に住み続けていること
		ご近所づきあい声かけ!	<ul style="list-style-type: none"> ・ご近所同士だから「おせっかい」の気持ちが必要 ・普段から近所の人、民生委員、包括支援センターの声掛けが重要 ・地域住民として家の前を通った時の安否確認はできます(電気など) ・道で会ったら声かけ、体調は?何かできることは? ・近所の人たちとのコミュニケーションが重要 ・事例では非常にうまく利用されている ・事例の人は長く地域に住んでいられた事による近隣の人とうまく支援されていると思う ・制度の限界については法律で決めてもらう ・近隣の特定の方をお願いされているでしょうね ・何か困っていることはありますか? ・おせっかいになってはいけない
		社会とのふれあい、制度の案内、声かけ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事への参加も ・ご近所同士だからできる、通院介助(送迎)(介護保険適用外) ・本人ができる身の回りのことはできるだけやってもらう、外に出る(社会との関わり)ことも推める ・当面通所サービス(デイケア)など利用で定期的な社会との接触を活用していく
	地域の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・世話焼きさんの仲間づくり ・近隣と知人の見守り、支援 ・弟など親族との関わり、第三者(民生委員、包括職員)がとることが必要 ・関係者を集めた連絡会のようなもの(情報共有、今後について)を定期的に行ってはどうか ・火の始末についての見守りを強化する必要がある 	
	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭管理については今後日常生活支援制度や成年後見制度を考慮してはどうか ・金銭管理については社会福祉協議会のサービス利用 ・金銭管理、後見人制度を活用する ・ご近所同士だからできる金銭管理 	
4	民生委員/包括支援センター/自治会	自助	<ul style="list-style-type: none"> ・近所とのつながりが作れない、第1歩は? ・お金の件はだれに頼むか ・本人の意欲(自助) ・日頃のコミュニケーション(挨拶から、自ら)
		共助	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動に対する関連自治会との共助 ・定期的な支援のあり方、サービスのスケジュール化、支援プラン策定 ・マンション住まいの方の支援について ・家の前を掃除してあげる
		公助	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉関係の団体(センター等) ・地域福祉に関わる人材の育成(社会福祉士、ケアマネ等) ・人材、施設不足(公助) ・地域福祉に対する具体的な全体像(体制)の構築 ・福祉サービス(公的サービス)の詳細な仕組み(サービスのあり方)と予算・
5	人間関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・近所との普段からの付き合い方が年を取ってからのつきあいになった。 ・話し相手近所に多数いる、もしかして何かの団体活動をしていたのかもしれないと思った ・近所との交流、健康時からのあいさつ、家に閉じこもらない ・地域の中で近所付き合いができています ・孤立している人だったらどうなるか? ・近所の方への遠慮の適当 ・子供さんがいないのに近所の方と仲が良いのはご本人の人柄だと思う 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・まわりに対して感じよく振る舞っているからだろう ・預貯金の引き出し等も地域の人が関わられる信頼
	趣味を探し出す	<ul style="list-style-type: none"> ・趣味の書道や短歌も人を引きつける ・趣味が広いから係わりが広い
	自分の意志・性格	<ul style="list-style-type: none"> ・近所との係わりをもつ前向的な性格がよい ・布団で寝起きしていることで体力維持が保たれている ・90才で認知症がないというのはうらやましい、近所の方々と仲の良いのは急にできるのではなく若い頃からの長い時間を掛けて培われてきたのだろう ・一戸建ての持ち家があり早くから生活設計ができてい、経済的である ・自分の意志がはっきりしている ・その方はとても気持ちの持ち方が良い方だから
	支援	<ul style="list-style-type: none"> ・包括支援センターにつないであるので良くなった後も見せてもらっている ・支援、話し相手、ゴミ出し等の他どこまでが可能なのか？ ・たくさんの公的支援を受けているが、その知識を持っていたのと利用も出来たこと ・地域の中で複数の方が関わっている
6	1. 支援の説得	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が希望しない場合もある ・支援上手になる事だと思う（話をうまく持っていく） ・あくまでも本人が近所づきあいをかんがえなければ
	2. 日常生活上の困り事の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・家屋での困り事を見る
	3. 日頃の見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをして相手と身近になる事 ・何気ない見守り、いつもの生活と違っているところはないか ・話し合い手に日中訪問する ・近所の方々が見守る（当番で） ・日頃の声かけ、回覧板をまわす時に一言など
	4. 趣味的活動をうながす	<ul style="list-style-type: none"> ・趣味を活かしてもらおう（書道、短歌の講師） ・趣味の発表会などの時は誘ってみる（会場で）
	5. 緊急的な援助	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の通報（救急車等） ・災害時の避難援助

2 小和田地区

日時 平成22年1月22日（金） 13:30～15:30

会場 小和田地区コミュニティセンター

出席者 地区23名 自治会連合会所属 8名
 地区社会福祉協議会所属 7名
 民生委員児童委員協議会所属 8名
 行政等9名 茅ヶ崎市保健福祉部 6名
 地域包括支援センター青空 2名
 茅ヶ崎市社会福祉協議会 1名



概要 被害妄想のある50代単身の女性Aと隣人B夫婦、民生委員C等との関わりについての事例を検討。5グループから検討結果を発表。

グループ	大見出し	小見出し	出された意見・アイデア
1	Aさんへの対応		<ul style="list-style-type: none"> ・Aさんは精神障害もありそうなので保健福祉事務所へ再度依頼する ・保健所への対応はどうか ・Aさんのかかりつけの病院をさがす...保険福祉事務所 ・Aさんの家族がいないの？さがして ・Aさんに健康診断を受けてもらう（特に精神面） ・介護施設に聞く。Aさんのこと
	Bさんの人権と事件性の有無		<ul style="list-style-type: none"> ・夫婦とも心労で疲弊しているので事件性があると警察へ ・AさんはBさんをどろぼう扱いとしており犯罪であり警察に再度 ・暴言を録音にとっておく、警察に届ける ・カメラを設置しBさんがAさん宅へ入ってない証拠をとる ・人権に係わる問題である ・Bさんは法務局に相談される

	関係機関への相談とBさんのフォロー	<ul style="list-style-type: none"> ・包括支援センターとの連携 ・市の相談窓口へ ・自治会長、民生委員に相談 ・近所の人を集めてAさんの発言は事実無根であると説明しBさん夫妻の潔白を説明する
2	Aさんへのアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・母親亡のショックが多いため、ほこ先が近隣に行っている ・Aさんの母親の知人に介入してもらう ・Aさんの身内がいるか否か確認、母親の入っていた施設からは聞けない ・過去仲の良かった人を見つけ話し合いをしていただく ・心の病気は身近な人が付き添うのがいいのだが ・Aさんの近所の方達の情報をいただく ・まわりの人がAさんの本音をひき出し(寂しい)協力する ・Aさんの情報収集 ・Bさん以外の方でAさんの情報を、兄弟姉妹 ・Aさんに病院へ行き診察を受けるよう説得する ・Aさんの医療機関受診の機会 ・Aさんの興味、又は趣味等を聞き誘う ・単身という事は頼れるものがない、何か趣味を見つける事ができないか ・Aさんと話相手を ・Aさんに語りかける(かかわるためのきっかけづくり) ・グループ活動等の参加をよびかけ孤立感を取り除く(Aさん) ・近隣の人と申し合わせてAさんにあいさつをする ・買い物などに同行できれば... ・何気ない会話に努めAさんの困りごとを聴く
	Bとの関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・Bさん夫婦から話を聞きとる、Aさんの関わり具合を聞く ・Bさんへの何かきっかけがあったと思う、Bさんに確認する ・関係者は陰でBさんをはげます
	AとBとの関係	<ul style="list-style-type: none"> ・A宅とB宅だけのトラブルか ・他の隣人には影響ないのか確認してみる ・AさんとBさんとの関係を調べる(警察?) ・A、B、Cで話し合いを試みる
	関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・事件にならないよう警察に協力を頼む ・地域包括支援センターは何故動かないのか ・市と相談、もしくは保健所と相談する ・保健所Aさん宅へも行き状況把握する
	民生委員の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・Aさんに民生委員が事情を聞きに行く ・Aさんと民生委員が話し合う ・民生委員さんから地域でのようすを聞きとる ・C民生委員や地域ボランティアの訪問で話を聞くことを始めては
3	Aさんの親戚を通じて話をする	<ul style="list-style-type: none"> ・Aさんの親戚とか知人とかはいないか?いたら協力をお願いする ・BさんよりAさんの問題、Aさんに対して良く話し合う
	Bさんにも充分話を聞いて心の支えを与える	<ul style="list-style-type: none"> ・BさんにAさんとの今までの近所つき合いを聞く ・Bさんの奥さんの悩みを聞く ・BさんはAさんの言動にあまり気をつかわず無視する様にする ・Bさんのお話も一回ゆっくり聞いておく
	精神的な病を?	<ul style="list-style-type: none"> ・Aさんには精神的な病がないかについて調べる方法はないか ・Aさんの精神状態を検査し必要ならば保護してもらう ・病院に行き精神科への診療を受けさせる
	Aさんの孤立を避けるため	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の人4・5人でAさん宅に行つて話を聞いてあげる ・AさんとBさんと一堂に会して放し合いをする Cが司会又は包括が司会(余り多人数でない方がよい) ・Aさん、Bさん、民生委員三者の話し合い ・AさんとBさんには第三者と一緒に充分話し合う機会をもつ

			<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、Aさん宅に近所の人がかかわるがわる電話をして言いたいことを全部聞き出す ・Aさんに対し民生委員の皆様により毎日の様に訪問していただき、近所づきあいを良好にするようにする ・民生委員と包括メンバがゆっくりとAさんの話を聞く。何が不満かを聞く ・民生委員がAさん宅を訪問して話を聞く
	その他		<ul style="list-style-type: none"> ・Aさんの困り事（心の中にあるもの）を探る ・Aさんに関わる人を増やす（日常会話から） ・Aさんは孤立している様なので老人会に入れ友人を作る ・Aさんの生きてきた過程が余り人との交流がないのである意味で被害妄想がある ・Aさんは孤独な状態で、誰とも打ちとけていないので、何らかの手を差しのべる ・警察での過去の事例を聞いて参考に（保健所も同じ）
4	Aさんの様子をみる、Aさんのフォロー		<ul style="list-style-type: none"> ・Aさんの友人を探してみる。相談にのってもらおう。 ・C民生委員がAさんの話を良く聞いてあげる。 ・CさんがAさんに直接会って様子を聞く ・Aさんの病気が問題なので良く話を聞く ・Aさんを訪問して話をじっくり聞く ・近所の方々がみんな暖かい言葉をかける。 ・入所していた施設に情報を聞いてみる ・Aさん一人暮らし、母が他界し精神的に不安定。身寄り ・Aさんの隣り近所のつき合いをまわりに聞く
	受診につなげる		<ul style="list-style-type: none"> ・身内を捜し病院で受診させるようにする ・Aさんが病的なものかどうかははっきり診断してもらう ・Aさんに病院等専門機関に相談するように自治会役員が伝える ・身内がない場合保健所から受診をうながす ・Aさんを病院にて状況（精神）を診断させる ・保健所がもう少し動いて現状を聞いてほしい
	Bさんのフォロー		<ul style="list-style-type: none"> ・Aさん58歳にしては若いのに頭がおかしいのではないが、隣人のBさんが迷惑だ ・近所の人々はだいたいAさんの人間性はわかっていると思うのでBさん夫妻をフォローしていく ・Bさん夫婦のストレスをわかってやれるよう支援する ・Bさんは地域包括センタに渡してA宅には行かない方がいい ・CさんがBさんに会って話を聞く ・Bさん夫婦もストレスがたまっているので時々訪問する
	共通		<ul style="list-style-type: none"> ・Aの問題は地域包括センタに連絡してかけつけてもらう事が良いと思う ・まわりの人にAさん、Bさんの仲について聞く ・警察と保健所からも情報を提供してもらう、民生委員として ・同じ地域の住民なので両者のフォローが必要 ・趣味の会、ボランティア活動をすすめる ・ずっと一人暮らし？ 婚活をすすめる ・精神的に悪い事が確定したならば公の施設にいれてもらう ・迷惑行為防止条例に該当しないか調査する
5	地域住民として何が出来るか	問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・Aさんの親族情報、病状が把握されていない、地域包括支援センタと保健所の連携を密に ・Aさんの親族についての情報収集が必要 ・Aさんは身内、友人を通して病院で受診を ・Aさんに対する扱いを検討 ・Aさんの話相手になる人がいれば態度は変わるかもしれない ・Bさんに対する支援も必要。警察への相談だけでは不足 ・Bさんを孤立させないように。Aさんも共に ・キーパーソンは誰 ・近所の方々と連絡をとる ・民生委員と地域包括支援センタとの連携を密にする

		<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括センタが対応策の検討を計画する ・もっと保健所に動いてもらう
	対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・Aさん、Bさんを孤立させない 近所の声かけ ・保健所、地域包括支援センタのスピーディなアクション ・地域包括支援センタだけでなく法の谷間の相談するところがあるらしい)
	地域としてできること	<ul style="list-style-type: none"> ・普段からの声かけ

3 鶴嶺東地区

日時 平成22年1月24日(日) 14:00~16:00

会場 鶴嶺東コミュニティセンター

出席者 地区 28名 自治会連合会所属 8名

地区社会福祉協議会所属 5名

民生委員児童委員協議会所属 11名

つるみねクラブ・地区ボランティア所属 4名

行政等 8名 茅ヶ崎市保健福祉部 6名

地域包括支援センターみどり 1名

茅ヶ崎市社会福祉協議会 1名

概要 仕事勤めで定年後、家に引きこもりがちな男性(70代)への地域の関わりについての事例を検討。5グループから検討結果を発表。



グループ	大見出し	小見出し	出された意見・アイデア
1	声掛け		<ul style="list-style-type: none"> ・話相手になる、お孫さんの話など ・花見などの行事に声かけをして、連れ出す ・地域でやっているサークルへの参加 ・地域の行事より毎月1回楽しみ糸口を作ってあげる ・サロンと一緒に参加する(させたい) ・自治会等の行事へ誘う ・週に1回くらい訪問する ・班長にお願いし回覧板について話をする
	声掛けの第一歩		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションをする ・近所づきあいをすすめる ・あいさつをしていく ・朝夕のあいさつをする(おはようなど) ・感謝する気持ちを
	家族へのアプローチ		<ul style="list-style-type: none"> ・息子さんと話してみる。お父さんの足腰が弱っていることなど ・長男とのコミュニケーションをとる ・長女との関係(話相手)を持つこと ・長女に年・数回来て頂く
	趣味にかけるいきがい!!		<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ(野球等)ファン=子供の頃の話の聞いてあげる ・趣味が少ないので祭り行事に参加を促す ・趣味の写真的事で依頼する ・写真が趣味の人にさそってもらう ・趣味の写真を生かし地元の同好会等を紹介する ・男性のクッキングスクールチラシ、見学会等糸口を作る ・植木、草、花の話をしてみよう ・庭の手入れ 桜の木を植え写真を撮る 趣味を増やす ・草木の手入れなど一緒に作業をする
	家庭生活を自立するための援助		<ul style="list-style-type: none"> ・家事援助の案内をする ・ゴミ当番の順番について
	健康につながる地域の情報		<ul style="list-style-type: none"> ・地区「ボランティアセンター」を紹介し色々な場づくりをする ・健康づくり課の事業等情報提供をする ・スポーツジム(リハビリセンタ)等に参加してみても
	アリナミンを飲ませる!!		<ul style="list-style-type: none"> ・モチベーションをもたせる
2	自分ならできること	あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・声かけ ・話し相手になってあげる ・悩み、ぐちを聞く ・本人のなやみ聞いてあげる
		ゴミの日の声かけ	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ出しの日の声かけ ・ゴミ出しの日に家を訪問して手伝う

			<ul style="list-style-type: none"> ・気長なつながりをつかんでいく
		スーパーでの会話	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーなどで見かけた時に声を掛ける ・スーパーなどで見かけた時に話し掛ける ・本人の買物等での会話から人のつながりを探る
		趣味を通して声かけ	<ul style="list-style-type: none"> ・写真のお話をする ・民生委員が訪問してとき趣味の写真を見せてもらう ・サロンに誘うには趣味の写真をきっかけにする
		知人を通しての声かけ	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員が妻の知人とともに訪問する
		命日に花を届ける	<ul style="list-style-type: none"> ・奥様の命日に花を届ける
		家族へ働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・孫にあそびにきてもらう ・長男・長女とのコンタクトを何とかする ・子供からサロンへ参加するように進めてもらう ・サロンへ行くキッカケを作る ・孫達が来てくれる
	地域としての取り組み	地域で行われているサロン等へのさそい	<ul style="list-style-type: none"> ・行事を知らせる声かけ ・一緒について行く ・民生委員としてサロン、デーサービス等に声かけする ・何度もサロンなどに誘う ・サロンや催しなど以外でも訪問回数を多くする ・外に出かける事のきっかけをつくる
		同じ趣味の会の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ趣味の人をさがしてあげる ・地域で同じ趣味の人がいたら紹介する
		地域としてボランティア活動として支援	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の人を誘って庭の草取りを申し出る ・近隣の人を誘って一緒にゴミ出しの手伝いを申し出る ・地域ボランティアの必要性を探る（自治会、民生委員） ・家の庭の清掃を一緒にやる
3		活用できるものは全て活用	民生委員
		家族	<ul style="list-style-type: none"> ・今までは子供は共に父の生活は本人に任せている...だったが現状をどう見ているのか。子へのアプローチ ・今の状態を息子さんに話し息子さんに現実をわかってもらう ・子供たちで親とに関わり方を話し合ってもらう ・家族の努力もうながす。長男とよく話し合う。情報を聞き出しその努力を進める
		友達	<ul style="list-style-type: none"> ・会社の友達にお願いしその時に近隣の人もそれに入り仲間を作るよう仕向ける
		行政	<ul style="list-style-type: none"> ・市の相談センターへ行き活動の意志を確認して頂き地域活動に少しずつ入ってもらう ・地域包括支援センター「みどり」に声かけ訪問をしてもらう ・要支援確認を受けてもらい予防通所へ通えるように声かけを支援センターにたのむ ・シルバー人材センターの庭そうじが出来るという情報を教える ・ヘルパーさんは入れないか

			<ul style="list-style-type: none"> ・介護認定をうけてもらいこれからどのように行政が関わるか
		自治会	<ul style="list-style-type: none"> ・老人会にさそう ・趣味のカメラにさそう。同好会があれば入会を進める（ポスティングによるさそい） ・自治会の班をさそう ・自治会としてサロンを設け呼びかけたい
		近所	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶だけではなく自分から率先して話しかける ・スーパーであいさつをする ・庭になった果物（柿、柚など）を持って行きおちかづきになる ・声をかける。あいさつ ・近くを通ったら声をかけしてみる ・訪問しお話相手になる ・一般的には同じ組の人であっても男性は見えない。会えば挨拶程度 ・世話を焼く事が本人の希望している事とは限らない。そんな場合は見守り ・家の前で会ったらあいさつをする ・話し相手になる。信頼関係を築く ・複数の人（男、女）定期的に声かけしその中で人間関係できたら
4	声かけ		<ul style="list-style-type: none"> ・（保健師として）訪問して健康状態などについて本人に話しかける ・ごみ出しや買物などで本人をみかけたら話しかける ・近所の同年代の人物が世間話の相手になる ・自治会入会をすすめる ・台風のあと、地震のあと、それとなく覗いてみる。お会いしたときは明るくあいさつするようにする ・顔を合わせた時に出来るだけ挨拶の声かけ / 立ち話をする ・ゴミ出しのときあいさつを重ねることによって知り合いなじみになる ・ご家族のことなどを聞いて話を広げる。お孫さんのこと、娘さんのこと ・近くに飲み屋があれば、又酒が好きであれば飲み相手になってあげる ・近くに喫茶店のような交流する場があれば誘い出す
	情報の提供		<ul style="list-style-type: none"> ・ポストに寝たきり予防のためのパンフレットなどを（みなさんに配布していますという感じで）入れてみる ・介護サービスのご案内をする ・ポストに写真サークルなどのちらしを入れて反応をみる。（一言そえる。定期的に入れる） ・コミセン、公民館で行われている男の料理教室に誘う ・社協のサロンにお誘いしてみる ・本人に自治会、老人会への加入をすすめる ・同一状況にある人の近況を話す ・サロンや自治会の催しに誘う。お楽しみだけでなく奉仕活動なども ・趣味活動からのアプローチ（サロンの写真を撮ってくださいなど） ・趣味・特技などを聞き出す ・自治会などが写真に興味ある人を集め指導してもらい交流のはじまり ・趣味の写真を生かすために写真のとり方を教えてもらいに行く
	地域のとりくみ		<ul style="list-style-type: none"> ・担当民生委員以外からの声かけ ・民生委員としてまず訪問して話をきく ・同じ地区の民生委員に相談する ・地域包括支援センターに情報を提供しアプローチしてもらう ・民生委員さんに協力してもらい自宅に電話して本人の体調をきいてみる ・兄が悪くなってきたということなどで健康上の相談などをするために包括支援センターにつなぐ

		<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険を申請してヘルパーに週何日か来てもらう ・介護保険を申請して認定がおりてケアマネージャーが決まったらケアマネージャーから長男、長女にお父さんの事相談していただく ・信頼関係を築くにはコミセン、公民館などの趣味のグループを紹介する。民生委員さんを通して何が出来るか ・まず介護保険を申請してみる。結果的に自宅でも ・配食サービスの活用をすすめる ・自治会の組長などに本人の状況を知らせ本人の趣味などを地域活動に引き出させる ・近所の対応が重要 ・地域の情報（祭り、集会 e t c）を積極的に届ける ・自宅周辺の清掃などは自治会が積極的にアプローチして接触を試みる ・市の給食サービス、宅配弁当をすすめてみる ・市役所にゴミの収集の相談する ・こうなる前に若い世代のときから妻まかせにせず地域になじむように出来るときに出来ることをすすめる
	家族の協力	<ul style="list-style-type: none"> ・長男と何とか接触を図り本人のことを周囲が心配している事を伝える ・長男に動機付をしてもらう ・長男が在宅のときを見はからって訪問し父親のことについて話をきいてみる。たまには父親と一緒に何かしては！とアドバイスする ・人にはそれぞれ人格やプライドがあるのであまりあわれんではいけない ・長男から地域参加を働きかけてもらう ・担当民委、家族との話し合い ・私が娘の立場だったら実家に帰ったときにご近所へお土産をも持って見守りを願います。包括支援センターにもおねがいます
5	環境ゴミ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で家の中のごみ清掃を手伝い清潔な家にする ・地域ボランティアで庭の草むしりをする事を申し出る ・朝夕のごみ出し時に声を掛けてみる
	声かけ	<ul style="list-style-type: none"> ・孤立しそうな状況にある人がいたら自分としてはまずなるべく話しかけるようにする ・地域の祭りなどの行事を知らせて参加の手の楽しさを伝える ・地域イベントの際パンフレットを手渡し話ができるようにする ・地域で食事会を開き欠席のときは料理を持って行き話をする ・近くの医者が施設等に知らせること ・散歩等で外に出るように近所の人がいじめ（季節の変化）知ることの楽しさを知る ・コミュニケーションを取るうとしても拒絶されるとなかなか進まない。担当の人は苦労されると思うがあきらめないで接触を続ける ・自治会として夏祭りなどの行事にさそってみる ・子供会のイベントの際案内書を子供が持って行き参加をすすめる ・地域で誰が最も近づきやすい人かさがす ・定年退職後、地域活動していただけるよう自治会で働きかけていく。特技を持っている人がうまれるのはもったいない ・自治会の回覧板を回す単位が一番身近でコンタクト取れるので入会をすすめて働きかけては ・近所の人（民生委員）等が話し相手になってなじみになる ・顔見知りになることがまず一歩なので民生委員と連れだって何人かで訪問する ・本人と最も近い（心情的）人との話し合いから ・ねばり強くお付き合いできるならガンバレ ・あいさつをして少しずつ話ができる環境をつくる ・仲の良い人（会話をする人）が話を聞きに訪問をしていく

家族		<ul style="list-style-type: none"> ・長男に嫁さんをさがす ・長女にもう少し多く実家に帰るように働きかける ・娘さんもなるべく多く訪問されお孫さんをまじえて交流を深め地域の方と連携をすすめる方向へもって行けば ・長男（いれば長女）に声をかけて顔見知りになる ・日常生活の中に食事を作ることも取り入れて自分の食べるものは作る ・地域のスーパーにも働きかけレジで買物を持ちかける
趣味		<ul style="list-style-type: none"> ・更に趣味を聞き出す。又は合った外の趣味を知らせる ・自治会館の草木の写真をとって（自治会館に飾るための）下さいとたのむ ・地区のバスツアー（みかん狩り等）に誘い写真係として来てほしいと伝える ・趣味が共通の方を紹介してお誘いしては ・趣味の写真を復活させて同じ仲間に紹介して外に出るようにする
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・無理な引き込み（グループ党）はよくない ・プライバシーの問題があり本人が望まないのに入りこむのはとても難しい。うつ病の経験があるので医師からすすめてもらっては ・孤立が不幸であるとの価値観？本人の人生観を知る

4 湘南地区

日時 平成22年1月29日（金） 19:00～21:00

会場 コミュニティセンター湘南

出席者 地区 27名 自治会連合会所属 9名

地区社会福祉協議会所属 5名

民生委員児童委員協議会所属 12名

当日参加 1名

行政等 8名 茅ヶ崎市保健福祉部 6名

地域包括支援センターすみれ 1名

茅ヶ崎市社会福祉協議会 1名

概要 自宅から物が溢れ出て、ゴミ屋敷のような状況になっている60代一人暮らし男性への関わりについての事例を検討。6グループから検討結果を発表。



グループ	大見出し	小見出し	出された意見・アイデア
1	近隣住民		<ul style="list-style-type: none"> ・声かけ、見守り(火事等) ・声かけをする ・みんなが見て見ない振りをしない ・近隣住民との話し合いを行う
	家主・管理会社		<ul style="list-style-type: none"> ・大家さんが公共施設に頼む ・家主よりの話しかけ ・管理会社に依頼する
	自治会		<ul style="list-style-type: none"> ・自治会役員より話し合い ・地域の自治会に協力を頼む
	民生委員・児童委員		<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員は介入しているのか ・民生委員・児童委員に相談 ・民生委員の方に行ってもらったら ・民生委員より話し合い(心をほぐす)
	行政		<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの撤去を強制的に行う(市役所) ・福祉総務課生活保護担当へ相談(民生委員) ・給食給付 ・ヘルパーの利用 ・健康師へ連絡 ・保健所へ連絡 ・施設への入所 ・安心まごころ収集の活用はどうか ・包括支援センターへ連絡
2	情報		<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の方々へ状況を差しさわりのない程度伝えて気にかけてもらう ・家庭の暖かさを味わってもらうような行為を試みる(食事や風呂等) ・自治会が中心となって本人と良く話し合い説得する ・話し合いが出来たら次のステップ

		<ul style="list-style-type: none"> ・担当の民生委員さんへ情報提供 ・近隣で情報の交換をする ・近隣住民同士で対策を練る(話し合う) ・一人ではなく地域の何人かでお話をする ・コミュニケーションをとれる様な方法を考えてやる
	民生委員	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り。様子を包括や行政に知らせる ・人の世話になりたくないと思っていないか？
	近所	<ul style="list-style-type: none"> ・住民として人間尊重の行動を試みる ・自治会の仲間として受入れる状況作りに努力する ・声かけて本人がどうしてほしいか？ ・気づいた人は声をかける ・人間関係を考えて声掛け ・ごみの日に声をかける ・関係をつくれるような声かけ(本人が相談できるような) ・人格を認めるようにする
	自治会	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の了解を取り付け自治会で集中的にゴミ処理をする ・一定期間後に改善がみられない場合は行政に強行手段をお願いする
3	情報	<ul style="list-style-type: none"> ・家族は本当にいないのか ・周りの人たちからも本人の情報を求める ・身寄りが居ないのか確認して連絡をする <p><民生委員、社協、自治会 の連携></p>
	住民	<p><声かけ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・心をひらかせる ・これまで接触の無い周りの人たちも積極的にあいさつする様にして、話ができるように時間をかけて話ができるよう努力する ・スーパーやコンビニでの買物で会った時も商品などを話題にザックバラに話ができるように努める ・買い物で本人が出来るよう、顔を合わせた時、荷物を持たせてあげる ・単なるあいさつを更に一歩進める。夏祭りなどあれば参加をすすめる ・ゴミを捨ててあげる ・あいさつをする ・当人には近隣が根気よく接する <p><アドバイス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・風呂に入りなさいと言う ・本人がまわりに迷惑をかけていることがわからないと困る ・本人にこのままだと身体(健康)に悪いし火災の心配があるので、市をお願いして全部かたづけてもらうことを承知してもらう ・ゴミをかたづけた後は自治会、民生委員等で毎日確認に行き指導をくり返す
	大家	<ul style="list-style-type: none"> ・全部市でかたづけてもらい、今後のゴミ出しの指導をして、ゴミ置場まで困難だったら玄関先に取りに来てもらう申請をする ・大家、隣人、更に自治会役員で訪問をくり返して周りに迷惑をかけているので、ゴミ処分、入浴等を話題にして説得を根気良く続ける ・大家さんから市役所へ話をしてもらおう(ゴミの片づけ、よごされて困っていること) ・大家さんに話をしてみる ・近所の人に状況を聞いてみる ・大家さんを通して何を考えているのか聞いてもらう ・日常、非日常的に接触のある大家さん、隣人は更に積極的に話をする様に努力してもらう ・本人の長所を探してたまには「ほめる」。ほめてから説得する ・近所の影響を考えて、大家さんに連絡をして対応してもらう
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・このゴミ問題で地域包括センターが対応できるのか？他人はもとより ・市役所に相談する

			<ul style="list-style-type: none"> ・一度強制的にゴミをすててしまう ・市として生活保護を受けることに対して生活の指導も必要なので市に要請する ・なぜ地域包括センターへ話をもっていっただのか？ ・市役所の担当にもう一度相談してみても市役所の方に動いてもらう ・(本人がゴミの片付けを気にしているらしいので)根気よくゴミの処分を説いて承認が得られたら市の協力を求める
4	マンション住民の特性一考	現認方法 社会性指導・関連性維持	<ul style="list-style-type: none"> ・マンションの場合管理費の滞納時点で退去を勧告 ・お風呂を紹介してあげる ・ゴミの出し方を教えてあげる ・何か一言でも話しかけてみる(困った事はないか、病気にかかってないか) ・ゴミの片付けを手掛りに本人が皆にとけ込んだ気持ちを作るようやってみる ・心理カウンセラー等の意見を聞く。本人とカウンセラーとの面談機会を作る ・ちょっとした会話の回数を増やす ・あいさつ、声かけ ・甘えをゆるさない
		社会規範の保持	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは話を聞いてみる ・信用得られる人を作る ・一度は声をかける ・ゴミルールが守れない人が居る ・漏水・異臭等自分に被害が及べば管理組合で対応 ・ゴミのかたづけ方法は？ ・ゴミの日に「今日は　　ゴミの収集ですよ」と声かけ ・生保・包括と相談 ・自治会、行政に投げる ・ゴミの強制撤去
		近所とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援を時間をかけて ・死亡させないようにする ・心配なのは迷惑の為か ・近隣の話ができる人とともに声かけなどの行動 ・マンションでは隣り同志の声かけが出来るが？
		放置	<ul style="list-style-type: none"> ・見て見ぬふり ・私ならばしらくほっておく(相談来る迄)
		ふざけるな	<ul style="list-style-type: none"> ・付き合いを拒否するためにマンションを選んだ人もある ・他の地域に移転後は知らない
		NETWORK作り	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会規範の保持」と「近所とのかかわり」でネットワークを作る
5	大家からの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・大家さんから声をかけてもらう ・大家以外の人とは話をしないのだから大家を通じて説得する(大家の話に必ず応ずる場合) ・大家よりゴミを処分することを話してもらう ・大家さんより指導教育していただく ・家の中へ入る事を了解してもらう 	
	地域の声掛け活動	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に参加を勧める ・自治会を中心に地域で話し合う ・地域ぐるみで声をかける ・家のまえを通りかかるたびあいさつをして顔を知ってもらおう 	
	食の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・食べる物を差し入れる ・給食サービス 	
	行政との情報交換	<ul style="list-style-type: none"> ・どんなものを買っているのか、食べているのか さりげなく見てみる。担当職員に教える ・体調が悪そうなときは生活保護や包括、市の担当課に知らせる ・かかわっている行政の担当者との情報交換をする ・市役所で家族や関係者について調べてもらう(個人情報) ・行政、相談窓口 行政対応 	
	ゴミの処理	<ul style="list-style-type: none"> ・本人、大家で協議 美化センター対応 ・まず、今あるごみを処分(近所・地域の手伝い) 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・他人が来る事に拒否するので最終的には行政が対応し処理する ・最終的には行政に強制的に処理していただく ・ごみを捨てる時に(自分が)ひと袋ずつ捨てさせてもらう ・ごみが片付いたら本人も気分が変わるかも?
	ネットワーク作り	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民、民生委員、行政ネットワークを利用する。
6	始めに	<ul style="list-style-type: none"> ・近所、地域に相談する ・接点を持つ人を増やし本人がつながれる人をつくる ・常に顔を見たらこちらからあいさつをする。無視されてもあいさつをしつづける ・毎日声をかける ・普通のお宅を訪問するのと同じように何気なく伺うのを繰り返す(民生委員として)
	片づけられない人	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家に伺う等して勉強してから対策を考える
	ゴミ対策	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のゴミカレンダーにひと言を添えて届ける ・声かけ(ゴミのルールから) ・ゴミの片付け本人にやってもらう(近所の方、民生委員も含めて) ・ゴミの件でご近所が迷惑をしていることを話し片付ける方法を考える ・本人と一緒に片づけてもらう ・「どうやって片づけていいかわからない」と本人が言っているのなら、本人と一緒に考えてみる ・ゴミ捨ての手伝い ・自宅へ行って毎日声をかけ今日はゴミを片付けようと相手を外へ連れ出して一緒に出来る様に根気よく大家さんにも頼む ・本人の健康が心配という事を流す
	事例	<ul style="list-style-type: none"> ・10年ぐらい前、東京荒川区内で同じ事例がありました ・清掃事務所で片付けるが1週間位でもとに戻る。その後ゴミはでなくなった

5 湘北地区

日時 平成22年1月30日(土) 13:30~15:30

会場 香川公民館

出席者 地区 15名 自治会連合会所属 3名
 地区社会福祉協議会所属 3名
 民生委員児童委員協議会所属 8名
 当日参加 1名
 行政等 9名 茅ヶ崎市保健福祉部 6名
 地域包括支援センターあかね 2名
 茅ヶ崎市社会福祉協議会 1名



概要 近隣から民生委員に通報があった認知症状が現れ始めた一人暮らしの80代女性への関わりについての事例を検討。4グループから検討結果を発表。

グループ	大見出し	小見出し	出された意見・アイデア
1	本人		<ul style="list-style-type: none"> ・デパートの仕事をしていたので会話が好きではないか ・一人暮らしであるので友人がほしい ・この人は今の生活と過去の生活とのギャップで不安になる。この不安をどう取除くか ・高齢者者であるので難しい事はしたくない
	近隣での見守り		<ul style="list-style-type: none"> ・家の中での会話ではなく近くの広場で気軽に話ができる方法 ・声かけをする(1回/日)「元気?」 ・たまに声をかけるなどして様子をみていくようにする ・本人の親しい人、信頼している人がいるか話を聞く ・近所で気にかけてくれる人の役割を決める ・近隣との情報不足、お付き合い状態を聞く
	家族から情報を得る		<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンターとの連携を娘に話す ・部屋を整理整頓してきれいに生活したい気持を持っているが、高齢で体が動かなくなりめんどうくさくなっている ・近くのボランティアセンターetcでのサークルにさそってみる

	地域組織活用		<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の組長に話をする ・民生委員に相談する ・民生委員がどこまで把握しているか確認 ・民生委員として行政の福祉総務課に連絡 ・まず何回か訪問し本人とコミュニケーションをとる ・近隣の人と民生委員の立場で話し合い情報を得る
	行政等のかかわり		<ul style="list-style-type: none"> ・独居支援サービスの利用（デーサービスの利用とか） ・地域包括支援センターに相談する ・市介護保険課への連絡 ・介護保険を申請すべく地域包括支援センターに連絡する ・金銭管理が心配なので市社協等の制度利用
2	見守り		<ul style="list-style-type: none"> ・見守る（ゴミ出ししているか？、郵便受けはたまっているか？） ・様子を見守り異変があった時、民生委員に連絡する ・ご近所のお友達はいるのか ・本人の話をよく聞く（どのような生活をしてきたか） ・見守る 近所の人・友達 ・時々見守りをする ・民生委員が一人くらしで見守りをしていたのか ・組長に連絡して組で見守る
	声かけ		<ul style="list-style-type: none"> ・出会った時にはあいさつなど交わし話すことを心がける ・声かけ ・必ず一人では接触せず複数で行動することが条件 ・声かけ、挨拶をする。旅行での話を聞いてあげる ・定期的に訪問してみる
	助言・支援		<ul style="list-style-type: none"> ・時々火の始末をしているか確認するため声かけをする ・ゴミ出しの際声をかける ・ごみ出しの手伝いをする ・市の健診を受けたか聞く ・地域サロンへ誘う ・地域行事に参加させる ・電話が入ったら困り事、生活状況をきく ・友人、知人がいないかきいてみる ・慣れてきたら困り事、生活状況を聞く
	専門機関		<ul style="list-style-type: none"> ・情報のキーパーソンをつくる 民生委員 ・行政の制度や施設を確かめておく ・包括に連絡する ・相談機関を利用してみたらと促す
	制度		<ul style="list-style-type: none"> ・金銭の管理をたのむ ・頼れそうな人に事情を話しておく ・自分を知ってもらってから話し相手になる ・SOSネットワークに登録する
	家族		<ul style="list-style-type: none"> ・長女と連絡が取れるように連絡先をうかがう ・民生委員さんに連絡をとり連絡先を聞いてみる
	方向性		<ul style="list-style-type: none"> ・施設に入りたい！ ・長女と同居 ・長女の家族と将来について話合う
3	地域	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ 声かけから始める ・話し相手を作る ・話し相手になる ・本人と近隣との関係 ・近隣の人に相談する
		自治会	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会でボランティア派遣を考える ・地域（自治会）の旅行への参加を呼びかける ・民生委員さんにできる範囲での見守りをお願いする
		民生委員	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員が時々訪問する事がよい ・民生委員・ボランティア等の定期訪問
		働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のサロンへ誘う 誰がよいか ・御近所との交流を勧める ・地域の小旅行に連れ出す
	家族		<ul style="list-style-type: none"> ・市からも長女へ入った情報を伝えておく ・長女に対して一人暮らしの継続について家族内で考えてもらう ・長女の意向の確認 ・環境（室内等）の整理

			<ul style="list-style-type: none"> ・家族に諮って老人ホームに入所を勧める ・長女と妹さんに来てもらう
	行政		<ul style="list-style-type: none"> ・関わる機関の確認、まとめ役と役割分担の決定 ・認知症かどうか程度の確認 ・要介護者の申請 ・福祉課に相談する事が一番よいのではないか ・精神的なケアを考える ・病院で診断 認知症かどうか
		地域包括支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ・包括センターに連絡する ・高齢福祉介護課をとおして包括支援センターへつなぐ ・本人、長女へ社協のボランティア制度を紹介する ・ヘルパーさんに入ってもらう（家の片付けなど） ・デイサービスの利用
	本人に対して		<ul style="list-style-type: none"> ・旅行へいく為の資金はどうしているか ・お金の出し入れを管理する人が必要 ・お金を貸してもよいか ・食事はどうしているのか？ ・本人がどのように暮らしたいのかの確認 ・本人の生活能力の確認 ・困りごとを聴く ・本人が困っていることの内容確認
4	<本人の話を傾聴>	見廻り・見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・日に何度か様子を見に行く ・近所の人を含めた見守り体制をつくる ・見守りについてボランティアの各種方法を利用する ・近隣の方々へ声かけのうながし ・理解のあるご近所の方に声掛けと民生委員への連絡を密に！ ・郵便ポストの状態を見る ・ご近所の見廻り・見守り（火の始末） ・火の始末が不安なので民生委員が主体となり近隣自治会組、班単位の助っ人でチームを組み順番で見守る ・民生委員の訪問活動 一人で不安でしょうから相談相手は地域に沢山いることを知らせる
		連携・体制作り	<ul style="list-style-type: none"> ・包括センター、民生委員、近隣等でチームを組む ・地域包括支援センターに連絡 ・認知症の傾向もみうけられるので行政に相談をすすめながら包括支援センターに相談する ・娘（長女）とこれからの進め方を打ち合せる（介護認定申請） ・民生委員から長女への福祉サービス情報提供 ・地域包括支援センターに連絡し関わりを持ってもらう ・姉妹や長女、あかね、ご近所、民生委員など情報の共有化 ・長女の連絡先を明確に聞いておく ・「あかね」を紹介し同行して話合う ・地域包括支援センターが中心となり自治会、民生委員、近隣の人、親族、友人を一同に集め検討会を開く
		社会参加の勧め	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での行事や集まりに誘う ・老人会等への誘い出しをする ・社協、お楽しみ会、老人会等へのお誘い ・本人宅での集まり（サロン） ・趣味活動に誘ってみる（買い物、旅行）
		公的サービスの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急通報装置や給食サービスを利用して安否確認や緊急時に備える ・社協の日常生活自立支援事業 ・お金の管理や身上監護について成年後見制度を考慮する ・介護保険によるデイサービス、ヘルパー利用を行う
		受診勧奨	<ul style="list-style-type: none"> ・病院での診断をすすめる ・長女から受診をすすめてもらう ・認知症がみられるので医師（病院）の受診を勧める ・長女や姉妹、友人などで本人に話しができる人が受診を勧め、状態によっては介護認定を申請する
		ボランティアの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア団体のデイサービスを紹介し参加してもらう

		<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンターなどの話し相手のサービスを利用する ・孤立させない為に近隣のボランティアのサロンやデイサービスに引っ張り出す。個別援助帳の活用
--	--	---

6 松浪地区

日時 平成22年2月7日(日) 13:30~15:30

会場 松浪自治会館

出席者 地区 19名 自治会連合会所属 5名
 地区社会福祉協議会所属 5名
 民生委員児童委員協議会所属 6名
 当日参加 3名
 行政等 8名 茅ヶ崎市保健福祉部 6名
 地域包括支援センターあさひ 1名
 茅ヶ崎市社会福祉協議会 1名



概要 ゴミ屋敷と化した一軒家の自宅に長男と二人暮らしの軽い認知症状が見られる70代女性への関わりについての事例を検討。4グループから検討結果を発表。

グループ	大見出し	小見出し	出された意見・アイデア
1			本人の生活環境の改善支援と調査(健康状態、家族構成など) 地域、自治会が手伝う
	家族		<ul style="list-style-type: none"> ・ Bさんに緊急事態の対応について相談 ・ Bさんの兄弟は他に居るか調べる ・ Bさんにどう生活したいのか確認 ・ Bさんの息子にお母さんのことで声をかけてみる ・ Bさんと休日に話し合う ・ ゴミ出しはBさん(息子)が出勤前に出したらどうだろう ・ Bさんにゴミ片付けの許可を得る ・ Bさんの怒鳴る声 暴力は? ・ A、Bの了解のもと名札を常時携帯させる
	包括支援センター		<ul style="list-style-type: none"> ・ Aさん、Bさんとの面接実施 ・ 家族関係の確認 ・ 自治会長さんとも相談し地域包括にも連絡をしてみよう ・ Aさんは介護保険の申請をしているのか ・ この家族に対する支援者はいるのか?
	民生委員		<ul style="list-style-type: none"> ・ Bさんへの接触 民生委員? ・ 民生委員さんに情報を聞いてみよう ・ 高齢調査等で緊急連絡先等少しはAさんのことがわかる
	医療機関		<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関への受診促進 ・ Aさん認知症では ・ この現状とAさんの認知症進行に関係がある ・ 認知症の進み具合の診断が必要。Bを説得する
	サービス機関		<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事サービスの利用 ・ 訪問介護の導入 ・ デイサービスの利用
	地域		<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミ出しの手伝い ・ 隣近所で何かできないか声をかけてみる ・ Aさんに危険がないか気にかけるようにする ・ 介護認定によってゴミ出しの件も手伝えると思う ・ 環境指導員と市の担当課が先ず行動を起こす
	自治会		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会の組合の会員に状況を周知し何かあった時は班長、会長に通告する ・ 夜間怒鳴り声が聞こえた時は警察に通報する
2	隣人		<ul style="list-style-type: none"> ・ Aさんの受診を促す ・ Aさんの様子を知らせる ・ 資料(サポート制度)をポストに入れる ・ 挨拶をする ・ 一緒にゴミ捨て ・ ゴミの日に声かけ ・ 隣り近所の見守り ・ Aさんの買物に付き合う ・ 息子さんとコンタクトを取ること
	地域		<ul style="list-style-type: none"> ・ Bさんへの積極的な声かけ ・ 息子さんに情報提供

		<ul style="list-style-type: none"> ・息子さんと会う。母親をどう思っているか？将来どうしていきたいか？ ・自治会の三役会などで対策を考える ・自治会の組（班）の方にAさんの見守りを願う ・地域のイベントの時に誘う ・Bさんの相談相手となる人をつくる ・Bさんへの福祉サービス情報提供 ・気長に関わりAさんの気持ちをほぐす
	専門機関	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターに問い合わせを勧める ・役所に連絡 ・専門機関に相談・訪問してもらう ・民生委員と訪問して実情を知る ・民生委員に連絡 ・民生委員と相談
3	地域	<ul style="list-style-type: none"> ・Aさんを訪ねてお話を聞く ・とりあえずAさんと話をする ・何度も訪問してAさんと信頼関係を築く ・Bさんと話をしてAさんについて困っている事を相談する ・Aさん、Bさんと話し合いの場を設けて本人の気持ち、状況を確認する ・とりあえずBさんと話をする ・Bさんと会ってお母さんの状態を互いに話し合って信頼関係につとめる ・BさんにAさんの日中の様子を伝え、行政に相談をもちかけてよいか提案する ・息子さん（B）に会社の休みの日に困っている事を聞く ・地域でゴミ出しを手伝う ・ゴミ出しの日に声かけをし、一緒にゴミ出しをする ・ゴミ処理は自治会の環境さんの協力を頂きながら清掃につとめる ・ゴミ当番等近所で協力してフォローする ・近隣の人と協議する ・自治会の方々と話し合いをする。全体が終わった時に再度近所の方にも出来る事を願う ・自治会福祉部の積極的関与 ・自治会の数名で訪問してAさんと話してみる ・自治会役員と事実確認をする ・ご近所の方のお話を聞き見守りを願う ・近隣の人がお世話できる体制を整える ・関係者との結論をA、B両者に説明し理解を得るように努力する ・民生委員と一緒にAさんと話し合う ・民生委員がAさんの健康状態を確認して困ってる事がないか相談する ・民生委員を交えて現状確認と対応策を協議する ・民生委員の援護の重点化 ・ゴミ出しについてボランティアセンターに相談する ・地区のボランティアセンターの方と相談しゴミ出しの方法を考える
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・介護、特養等施設への入所をあっせんする ・必要な介護サービスの導入 ・周辺の見守りと行政、包括とのネットワーク ・異変があった際にすぐ対応できるよう見守り活動を住民に願う ・包括支援センターに連絡して解決策があるか考えてみる ・包括支援センターに連絡し一緒に訪ねる ・医者診断が必要 A：認知症 B：精神障害 ・Bさんと話し合い医師との連絡も取れるようにする ・Aさんに受診を勧める ・経済状況が許すならば自費で片付けを促す ・Aさんの食の確保（給食、民間サービス）

4	Aさん、Bさんにどうしてほしいのかを聞く	ゴミの問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ Aさん、Bさん どちらでもよいからゴミに対する考えを聞き何を望んでいるのかを知る事も大事 ・ ゴミ出しが大変だったら少しずつゴミを出す手伝いをする ・ Bさんに現状改善の要望をする ・ 息子さんの困りごとを聴く ・ 市役所にゴミの片付について相談する ・ Aさんを訪問し現状を訪ねてその家庭の状況を知る事
		Aさんの認知症のことが心配	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症が気になる。包括支援Cとのかかわりはどうなっているのか？
	コミュニケーションをとる	Bさんと	<ul style="list-style-type: none"> ・ Bさんと近所の人と話し合う場を設定する ・ 息子Bさんとあいさつを交わす ・ Bさんへゴミ出しの日には声をかける ・ 息子さんの出勤時をとらえて話を聞く ・ 息子さんにまず会ってお母さんの状況を聞く ・ Bさんにあいさつをして顔見知りになる ・ 事故や火災の心配あり、息子さんとのコンタクトがカギ
		Aさんと	<ul style="list-style-type: none"> ・ Aさんを外で見かけたらあいさつをする ・ Aさんの痴呆が始まっていれば息子さんに手紙を書き会いたい事をつける ・ Aさんにあいさつをして顔見知りになり信頼関係を築く ・ 地域包括につなげる。市と相談する
	批判でなく立場支援を考える		<ul style="list-style-type: none"> ・ 近所の人たちが変わり者と決めつけない ・ 自治会や近所ぐるみでAさんのことを考える ・ 近所に世話焼きさんが必要
関係者・機関・行政との連携	自治会・民生委員・警察・包括支援C	<ul style="list-style-type: none"> ・ Aさん、Bさんと一緒に包括へ行く ・ 自分一人では対処できない時役所へ相談 ・ 市、高齢福祉課とAさんについて相談してみる ・ 民生委員は3年ごとの実態調査の時にきちんと把握する ・ 民生委員さんと一緒に訪ねる ・ 自治会長さんに相談しAさん宅を訪ねる ・ 自治会長さんに現状を把握してもらい改善を申し入れる ・ 自治会として環境部がゴミの問題について話に行く ・ 夜中に怒鳴る声が聞こえた時、暴力がないかと派出所に連絡する ・ ご近所でこの件について話し合う機会を持つ ・ 苦情をもとに自治会と民生委員とで協議、対応できることを考える ・ 地域包括支援センターと連携してAさん宅を定期的に訪問する 	

7 浜須賀地区

日時 平成22年2月10日(水) 13:30~15:30

会場 浜須賀会館

出席者 地区 32名

自治会連合会所属	4名
地区社会福祉協議会所属	6名
民生委員児童委員協議会所属	6名
サポートはますか所属	8名
えにしだ会所属	4名
あじさいの会所属	3名
サロンはますか所属	1名
行政等 8名	
茅ヶ崎市保健福祉部	6名
地域包括支援センターあさひ	1名
茅ヶ崎市社会福祉協議会	1名



概要 ゴミ屋敷と化した一軒家の自宅に長男と二人暮らしの軽い認知症状が見られる70代女性への関わりについての事例を検討。6グループから検討結果を発表。

グループ	大見出し	小見出し	出された意見・アイデア
1	地域で協力しあう		<ul style="list-style-type: none"> ・ 皆で声をかけあう ・ 近所の人声かけ ・ Aさんと挨拶をかわすようにする ・ 先ず声をかける。話すことができればある程度把握できる ・ Aさんの様子をできるだけ観察する

			<ul style="list-style-type: none"> ・まず越してきた時の状況。近所の挨拶、コミュニケーション ・大家がいれば聞いてみる ・ゴミを出さない（出せない）理由をAさんに聞いてみる ・どんなゴミが多いのか？ ・その人達に対する対応、言葉のかけ方 ・息子と話ができるように働きかける（休日を利用） ・息子へのあいさつ ・息子の勤務先は？会社関係から何かアドバイスを
	恒久的対策		<ul style="list-style-type: none"> ・隣近所と話し合ってみる ・近所間での話し合い（情報共有） ・自分で話すのは難しいので組長さんに相談する ・話し合いが難しいようなら民生委員に知らせる ・民生委員に訪問してもらう ・親類等いないのか ・個人で中に入っていくのは難しいこと。第三者の方が上手く出来ることもある ・民生委員へTEL ・地域包括へTEL ・市役所と一緒に対処を ・ゴミは最終的には行政に任せるしかないのでは ・個別収集できないか ・警察との連携は？暴力は？
	深入りは？		<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて本人を家の中へ促す ・当方からもゴミ出しの提案をしてみる ・具体的なことが出てくればサポートでも対応できる。人が入ることが大切
2	どういった支援を求めている？	近所のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・言われたこと、頼まれたことに手を貸して顔見知りになる ・ゴミ出しの協力を通じて距離を縮める ・ゴミの日に声をかけてAさんとゴミを出しに行く ・何とかしたいと思っているだけでは何もしないのと同じです。Aさんに声をかけましょう ・周りの人にも声をかけをお願いします ・掃除と身なりを気にするよう近所の方の声をかけ ・Bさんも一緒に徐々に巻き込むようにしていく
		親族を巻き込む	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の親、家庭のことを大事にしないのは何故なのか。他の親族のことも
		内情をもっと知る	<ul style="list-style-type: none"> ・会社員のBさんは社会の一員であることはよくわかっているはずなのに ・Aさんが出ている時にあいさつする ・Aさんは淋しいのだからできるだけ近所の方の見守りが必要 ・Aさんと話す事の努力をしていきます ・時間はかかると思いますが、話すきっかけができたなら外のゴミと一緒にかたづけしていく ・あせらずに共に話し、共に行動していく事から関わり、相手を理解する ・A、Bさんと話し合う機会を設ける ・本人と話ができるよう会う時間を作る ・Bさんとの接点を見つけ出し社会の一員であることの認識を考えてもらう ・まず何日か続けて様子を見る ・内情をもっと知るために誰が接触するか
	支援団体・機関につなぐ	自治会、民生委員のかかわり 市・包括・消防	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員はどの程度状況を把握しているか ・民生委員等と情報を共有する ・自治会の方とも連絡を取り合い、見守って何か変化があれば声をかける ・自治会はどの程度状況を把握しているか ・包括、市に連絡をして協力を求める ・中に入って様子を確かめるように市の方と入って中を知る ・とりあえず公的機関にお願いしてゴミを片付ける ・消防署に連絡してみる

3	Aさんとコミュニケーションをとる	Aさんにあいさつをする、話しかける	<ul style="list-style-type: none"> ・外で会ったらあいさつをする ・Aさんに話しかける ・Aさんの話を聞く ・Aさんにできるだけ声をかけるようにする ・話ができるときは世間話をする ・Aさんとお茶をする ・おいしいものを作っていく
		地域の人と協力してAさんに話しかける	<ul style="list-style-type: none"> ・Aさんに皆で話しかける ・近所の人と誘い合って声かけをする ・本人に話しかけて自分で状況を把握する ・A、Bさんが在宅の時複数人で訪ねる ・息子さんと話ができるようにしたい。一人では無理なので地域の人と ・認知症サポーター養成講座を受ける ・何度も訪ねて心を開いてもらう ・手紙を入れることもどうですか ・地区担当の民生委員さんに相談 ・Aさんが介護を必要としているか確認する
	Bさん		<ul style="list-style-type: none"> ・Bさんに根気よく話しかける ・Bさんの会社での様子など知る ・Bさんの会社へ休日に訪ねてBさんの話を聞く ・Bさんと話し合える様つとめる ・Bさんがどなっている時中に入る ・BさんにAさんの様子を聞く ・痴呆なら息子さんに施設の入居をすすめる
	ゴミ出し		<ul style="list-style-type: none"> ・今日はゴミを出す日だと話す ・ごみ収集の日に声かけをする ・ゴミの件もBさんに話す
	家族状況を知る		<ul style="list-style-type: none"> ・家族は母と長男の二人きりかどうか？他に子供は？ ・他の家族、親類をさがす
4	第一段階		<ul style="list-style-type: none"> ・地区包括センターと相談する ・地域包括支援センターと一緒に行動 ・安心まごころ収集を紹介し利用させる ・民生委員の方などに時折Aさんを訪問してもらう
			<ul style="list-style-type: none"> ・その方とコンタクトの取れる方を前に出して話し合う ・10年も暮しているので親しい人がいると思われるのでその人をさがす ・可能な限り日常のことばの交わり合いをする ・息子さんになるべく挨拶をして親しくなる ・自治会の役員と民生委員との話し合いを続ける ・自治会の役員がそのお宅を複数で訪ね、話を聞く ・本人の身体状態を見守る ・本人から生活の様子を聞く ・自分の目で状況を確認する ・Aさん、Bさんの言っている事、何が正しいか
	自治会等周りのつながり(確認)		<ul style="list-style-type: none"> ・Aさんは認知症らしいので息子さんに様子を聞く ・息子から本人の生活の様子を聞く ・地区民生委員に相談 ・民生児童委員として月1回は確認する ・訪問する場合は複数の方が行きいろんな話しをすること ・Aさん、Bさん ご近所に遠慮している様子。もっと周りの人とも打ち解ける事 ・ゴミ対策よりAさんの体調が心配。
	行動		<ul style="list-style-type: none"> ・包括支援センターに知らせる ・家族、親戚に連絡をする ・本人と息子に地域包括や市に相談するように話をする ・市に知らせ相談
	公的機関へのつなぎ		<ul style="list-style-type: none"> ・最後は包括支援センターに相談 ・自治会として何が出来るか ・近所の人をサポートを求める ・Bさんに相談できる状況なのか ・息子の通院をすすめる
	孤立化、見守り		<ul style="list-style-type: none"> ・包括支援センターからその後の情報得られるか

5	私ならこうする	Aさん	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の疑いもあるのでゴミ片付け後の対応が必要 ・判断力が弱っているから優しくしてあげたい ・病院に連れて行く
		Bさん	<ul style="list-style-type: none"> ・息子と話し合う機会をつくる。例えば集会時に領収書を書いてもらうなど ・息子さんと会話は出来るはず ・息子に声をかける ・息子に事の重大さを理解してもらう ・仕事に就いているので生活の心配ない
		ご近所の皆さん	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの日を教える ・ゴミ当番の時声かけ。当日は一緒にやろうと声をかける ・ゴミの山を作らない ・笑顔で挨拶から ・声をかける ・見てもらえない ・近所としては見守りをする ・全く拒否ということでもないので話しかけ。AさんもBさんも可能性ある ・いいと思った点 Aさん外に出ることある、こもっていない、声をかけやすい
		行政	<ul style="list-style-type: none"> ・Bさんの承諾が得られたらゴミの始末を住民の協力のもと行う ・高齢福祉課などの行政がとりあえずBさんと話し合う ・Bさんとの話し合い出来ない場合、親類など近親者を探して話し合う ・行政に持ちかける ・半ば強制的な行動をとる
		自治会	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会役員が民生委員と訪問する ・地域の福祉担当が入って相談をする ・近所や自治会、民生委員さん達にも見守りしてほしい ・自治会の行事に息子を誘う
6	Aさん		<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に声をかける ・話をよく聞いてあげる ・仲良くなる ・地域の住民と協力の上、家庭訪問する ・近所の方と一緒に外のゴミを出してあげる ・地域の催し物に誘ってみる ・根気よく顔合わせをして信用してもらう ・病気がすすんでいる様子。確かな人と一緒に連れて行ってあげる ・子供さん等がおられたら時々情報を
		Bさん	<ul style="list-style-type: none"> ・時々声をかけてあげる ・Bさんと会話を持つ ・息子とコンタクトをとる ・BさんにAさんの昼間の様子を伝える ・Bさんに福祉サービスの情報提供 ・Bさん宅に手紙を入れておいては？
		近所	<ul style="list-style-type: none"> ・隣り近所の人に情報を伝え見守る ・Aさん 自治会に入ってもらいゴミ当番をして下さいとはっきり言う ・子供会等にも情報を伝える ・交番に情報を伝えパトロールをしてもらう
		ゴミ捨て	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒にゴミ捨てをする ・一緒にゴミ出しを手伝う ・家の周りのゴミの片付け、掃除を一緒にする ・庭掃除を一緒に手伝ってあげる
		関係機関（行政）	<ul style="list-style-type: none"> ・行政に連絡。情報を流す ・関係機関と連携 ・民生委員さんと一緒に訪ねて行きたい ・市の福祉課へ相談 ・公的機関（地域包括支援センター）に連絡
		その他	<ul style="list-style-type: none"> ・解決を急がない ・辛抱強く（永くかかる）

8 南湖地区

日時 平成22年2月13日(土) 10:00~12:00

会場 南湖会館

出席者 地区 20名 自治会連合会所属 4名
 地区社会福祉協議会所属 2名
 民生委員児童委員協議会所属 9名
 老人会所属 3名
 婦人会所属 2名
 行政等 8名 茅ヶ崎市保健福祉部 5名
 地域包括支援センターすみれ 2名
 茅ヶ崎市社会福祉協議会 1名



概要 自宅から物が溢れ出て、ゴミ屋敷のような状況になっている60代一人暮らし男性への関わりについての事例を検討。5グループから検討結果を発表。

グループ	大見出し	小見出し	出された意見・アイデア
1	地域		<話しかけてきっかけをつくる> ・地域の集りにさそう ・食事に関しての話 ・地域の役員等で不自由な部分を聞く ・犬の散歩のボランティア <ゴミは環境指導員に相談> ・隣組住人で掃除に関して話をする ・掃除屋さんに定期的に掃除を頼む <安否確認> ・近所の人に安否確認を頼む <民生> ・家の所有者や管理人に現状を伝える ・大家さんに話をする <その他> ・酒屋はツケでお酒を売らないで
	家族		・子供の意見を確認する ・アル中として病院に連れていく ・受診をすすめる ・子供に訪ねてもらう
	行政		・福祉の総合窓口で相談し状況を把握してもらう ・成年後見制度 ・社協 安心サービス ・家族の連絡先
2	近所・声かけ		・本人の話を傾聴 ・買物に行く時は友人と一緒にってもらう ・一人暮らしなので一日が不安。人と話したい ・一人にはしない。近所の人達と話の場をもうける ・ゴミの日に声をかける ・犬の散歩をしてあげる ・本人と一緒に家を片付ける
	民生		・いこいの場等独り住まいの寄り場に加入させる ・外出を促す(地区のイベント) ・自治会で様子を聞いたら見に行く ・民生委員に時々来てもらう ・掃除を手伝ってもらう ・銀行に行くには信用ある民生委員、又は信用ある友人に相談する
	家族		・家族を探す ・太郎さんの兄弟達に相談する ・市の行政にお願いして次男を探す
	病院・診療所		・行きつけの病院や内科診療所の指導を受けさせる ・本人は病院に行く気があるのか ・酒飲みで病院で診てもらう
	制度(すみれ)		・地域擁護事業の活用 ・認知症患者に対する成年後見制度の活用 ・介護保険の申請
3	地域住民ができること		・信頼関係ができてから一緒に買物に行く ・おかずを作って持って行く
	見守り・声かけ		・近隣の方が見守り ・話をするきっかけを作る

		<ul style="list-style-type: none"> ・外で会ったらあいさつをする ・外で見かけた時に声かけをする ・ゴミ収集日に分別の声かけをする ・訪問したときにごみ収集日程を伝える
	相談	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に相談する ・民生委員に相談する ・民生委員は近隣の人とともに訪問 ・老人会に加入させる ・婦人会へ相談する ・大家さんに相談する ・関係のある近隣の人とともに声かけ ・犬について動物愛護協会へ相談する
	紹介する	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターを紹介 ・安心まごころ収集制度を紹介する ・給食サービスを紹介する
	行政に連絡する	<ul style="list-style-type: none"> ・包括に相談して介護認定を受けてもらう ・市社協のあんしんセンターに相談する
4	地域	<ul style="list-style-type: none"> ・近所で家の廻りを清掃してやる ・近所で見守りを願う ・友達をつくれるよう集会等への参加をすすめる ・話を聞いてやる ・一人で取り組まない ・火の元に気をつける（近所だともらい火の危険） ・お金は貸さないが下るす手伝いは出来る ・介護ヘルパーをたのむ（認定をもらった後） ・月に何日か訪問ヘルパーをたのむ ・民生委員に相談 ・複数の民生委員で相談する
	診療機関	<ul style="list-style-type: none"> ・医師へ受診するよう勧める ・介護の認定申請
	親族	<ul style="list-style-type: none"> ・次男と連絡をとれるようにする ・本人の親族を捜す ・息子に連絡して一緒に住むようにしてもらう
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・支援センターと相談して家の中の掃除をしてもらえる人をお願いする ・市へ要援護者登録をする ・行政と相談して施設を紹介してもらう ・保健所に連絡して犬の事を相談する ・ゴミと犬の糞については保健所と相談 ・ゴミの散乱は市の担当者をお願いして収集日に取りに来ってもらう ・ゴミの問題は市の環境センターへ連絡する ・財産管理できる後見人を決める
5	誰に？	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の地域との交流の有無 ・近所の方との話はどこまで出来ているか ・本人の困り感を聞く ・地域のつどい等に参加をうながす ・話し相手になる ・近所の人と共に自宅の整理をする ・まずは誰かに相談する（でも誰に？） ・親族に連絡をとる ・自治会や老人会等に参加させる ・民生委員と一緒に訪問する ・一緒に飲む
	対応の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・子供との連絡を取るようになる ・息子さんはほんとうに頼れないのか。ならば近くの他人とまわりがはらをくくる ・身内の状況に応じて対応する ・市包括に連絡する ・認知の判定が難しい。第三者はできない ・家の汚れ 日がたてばたつほどこわくなる 毎日みれる方法は？ ・家の掃除を一緒にやる ・犬の散歩をきっかけに毎日なんらかの対処する

		<ul style="list-style-type: none"> ・犬にみなが集ってくるような方法を考えられれば ・犬は心の支えと思われるので絶対引き離さないようにしてあげたい ・犬の散歩を手伝う ・犬の飼い主等の交流を進める ・本人の趣味は。話し相手を見つける ・日頃のお手伝いはグループで見る
	金銭の扱い方	<ul style="list-style-type: none"> ・社協のあんしんセンター成年後見制度を教える ・金銭については民生委員に連絡を取る ・金銭の処理は一人では対応しない（正規な手続き要） ・お金の出し入れをきちんとできる人を選定 誰？使う分まで制限していいものか？ ・お金の流れをきちんとする。

9 小出地区（第16回 小出地区「住民のつどい」）

日時 平成22年2月14日（日） 13:30～16:00

会場 小出地区コミュニティセンター

出席者 地区 35名 自治会連合会所属 4名
 地区社会福祉協議会所属 4名
 民生委員児童委員協議会所属 7名
 当日参加 20名
 行政等 8名 茅ヶ崎市保健福祉部 5名
 地域包括支援センターあかね 2名
 茅ヶ崎市社会福祉協議会 1名



概要 近隣から民生委員に通報があった認知症状が現れ始めた80代女性への関わりについての事例を検討。5グループから検討結果を発表。

グループ	大見出し	小見出し	出された意見・アイデア
1	公的		<ul style="list-style-type: none"> ・新聞がたまっているか見る ・どこの窓口にいいたらよいか ・民生委員に連絡する ・気づいた方が公的なことにつなげる ・1病院、2民生委員、3警察 に知らせる事
	声かけ		<ul style="list-style-type: none"> ・趣味をたずねる ・ご近所付き合いが大事（普段） ・直接声をかけてみる ・妻の不安な気持ちを聞く ・私のできる事はまず自宅に行って声をかける。顔見知りになると思います ・見かけたら挨拶する(声をかける) ・お宅に声かけ
	家族・知人		<ul style="list-style-type: none"> ・まずは身内に声をかけた上で ・仲の良い友達に話を聞いてもらい相談する ・妻と仲の良い人が家族の方に様子をきいてあげる ・声かけを続ける事で色々な事を知る事ができると思う ・お子さんに連絡を取っても良いか？ ・妻の妹さんに連絡を取っても良いか ・電話を利用しよう（注）子供は近所の人は
2	- 1 地域でできること		<ul style="list-style-type: none"> ・地区に参加させる ・ご近所の方に夫の状態を知らせておく ・将棋を教えてもらいに行く ・将棋サークルより参加の誘いをする。外出できる機会をつくる ・サークル仲間に顔を出してもらう ・友人を家にまねく ・趣味の友人の意見を求める ・夫の友人に話し相手をたのむ ・ゲーム、パソコンをやらせる
	- 2 奥様へのサポート		<ul style="list-style-type: none"> ・親しい間柄なら奥さんとおしゃべりする ・声をかける(奥さんに)普通の会話 ・庭に咲く花を届け会話のきっかけをつくる ・不安になっている妻の話をゆっくり聞く ・奥様の話相手 ・訪問して話を聞く

			<ul style="list-style-type: none"> ・妻が夫を外に連れ出す ・月に一度は外食をする 	
	- 3 親族		<ul style="list-style-type: none"> ・親せきの人につなげる ・子供達が母親の近況をわかっているのかきく ・夫の兄弟姉妹を探して、その人と相談して対応を考える 	
	- 4 みんなでできること(見守り)		<ul style="list-style-type: none"> ・時おり様子を見に行く ・用事がなくても時々訪ねる ・留守番をして差し上げる 	
	民生委員：橋渡し		<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員さんへ相談する ・民生委員に近況を知らせる ・自治会の班長と相談して民生委員とつなげる ・民生委員とつなげる 	
	公的機関に相談		<ul style="list-style-type: none"> ・市の老人相談機関に自治会として相談する ・近隣の老人保健センターに相談する ・地区ボラセンに相談する ・地域包括センターに相談することを勧める ・包括支援センターのあることを伝える”あかね” ・地区ボランティアセンターを紹介する 	
	医療機関		<ul style="list-style-type: none"> ・夫の認知症が疑われるので病院受診を勧める ・専門医を受診することを勧める 	
3	<当人・家族>	妻 夫	<ul style="list-style-type: none"> ・妻が夫を病院に連れて行かないのか？ ・子供さん ・夫＝手の体操 	
		子供	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちがなぜ協力しないのか 	
		妻自身	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな事で集中出来る事をさがす ・子供さんとの連絡も時々必要 ・地域包括センターに連絡・相談(夫の介護保険申請) <p><まず自分たちでできることはやる事が大切である></p>	
	<地域>	状況を確認	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問してお二人の現況を把握する ・民生委員さんの訪問 	
		地域でできること	<p><話し相手></p> <ul style="list-style-type: none"> ・声かけをする ・電話で近況を知らせ合う ・近所ならばお茶にさそう ・話し相手になる ・妻の話の傾聴(グチを聞く) ・こんにちはコール：朝、昼、夕方に挨拶程度の電話 ・おしゃべり会：直接の訪問、集いなどをする ・外で会ったら現在の様子をさりげなく聞いてみる <p><一緒にどうですか></p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しいことにお誘いすること ・サロンに一緒に行くよう誘ってみる ・夫婦一緒に地区の集まりに誘う <p><ボランティア参加></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園、児童クラブへボランティアに参加してもらう ・ご近所の方との交流 ・趣味を活かす呼びかけ ・地区のボランティアセンターを紹介する(話し相手のボランティア) 	
		その他	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員がどなたか伝えて紹介していいか聞く ・見守りを続ける(声かけ)民生委員である為 ・妻 歌うこと(奥様) ・交換日記：お手紙、メールなどでもよい ・家族(子供)への相談を促す 	
		<行政>		<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターに相談するよう伝える ・困ってらっしゃること、希望・要望を把握する ・まず、包括支援センターに相談する
	4	1 .		<ul style="list-style-type: none"> ・サークルのお友達との協力はどうでしょう ・奥さんに援助を受けてはどうか勧める ・奥さんと話してよく様子を知る ・妻の話し相手 ・二人暮らしなので近隣の見守りがあるといいなと思う ・趣味の友人にも連絡してみる ・夫の友人を呼ぶ 趣味の仲間 ・週2回程度家庭訪問

		<ul style="list-style-type: none"> ・奥様との連絡が一番 ・近所の方々にも協力要請(話し合い) ・同じ様な悩みを持つ人と交流、相談する ・近所の人と相談できる体制をとる ・話し相手になる ・自治会や老人会の仲間になるように勧める
	2 .	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の民生委員さんに相談 ・包括支援センターへ連絡する ・奥さんに市役所へ行って相談するように勧める ・要支援体制を進めていく ・包括支援センターと連携を取りたずねていただく ・地区担当の民生委員さんに相談
	3 .	<ul style="list-style-type: none"> ・診療所へ受診を勧める ・大木医院へ連れていく ・病院で診察 ・行政や病院に連絡する
	4 .	<ul style="list-style-type: none"> ・介護認定を申請するよう勧める ・ご主人をデイサービス1回/週くらいプランにしてもらい奥さんにほっとしてもらう ・デイサービスを利用する
	5 . 最終的な支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ボラセン等に相談し話し相手の紹介 ・家の周囲の草とり等の手伝 ・夫の世話の協力 ・なるべく散歩に出たり二人でおつかいに行く
	6 . 本人がどうするか	<ul style="list-style-type: none"> ・お子様2人の協力、話し合い ・親族の連絡先を聞く
5	近隣の人達のサポート	<ul style="list-style-type: none"> ・友人を家にさそう ・妻のコーラスサークルの仲間に様子を聞く ・妻のコーラスサークルの仲間を訪問する ・妻 悩みを聞いてあげる ・自分だけで悩まない ・人に相談する ・夫の友人 家に呼ぶ ・ちょくちょく様子を見に行く ・あいさつをする ・妻の方も人と話をするようにする ・妻が再び少しでもお友達と話せるような機会作り ・時々話し相手になる ・この夫婦の家に近隣の人が集まってお茶を飲む ・近所でサポートしてくれる人をさがす ・近隣の人が声をかける ・意識的に声をかける ・自分達の状況をまわりの人に知ってもらう
	ボランティアセンターにお願いする事	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンターに出来る内容を知らせる ・ボランティア等の手を借りる(話し相手) ・妻が外出できるようサポートする ・ボランティアセンターに支援をお願いする ・妻へ 包括支援センターへ相談 - すすめる ・介護はひとりでは無理、支えられる体制作りが必要 ・小出ボランティアセンターに相談する(日常の買い物など) ・夫 デイサービス利用(妻 外出)
	行政にお願いすること	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の担当を知らせる ・行政に相談する ・公的な所にまず相談 ・一度関係機関に相談する ・有料老人ホームに入居する
		<ul style="list-style-type: none"> ・包括支援センターに相談、今後の事についてどんなて手だてが考えられるか ・地域包括センターあかねに相談する
		<ul style="list-style-type: none"> ・夫の病状を専門の医師に相談する ・夫の状態をチェックできるように医療機関につなげる ・夫 医療相談 ・妻の不安を受けとめてくれる機関につなげたら ・介護の仲間(グチ、相談)

		<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員に相談を進める ・民生委員に様子をみてもらう(声かけ)
家族で協力すること		<ul style="list-style-type: none"> ・子供(2人)や孫達との交流もこまめにするようにしてもらう ・たまに子供夫妻、孫に来てもらう ・孫に遊びに来てもらう ・子供が定期的に来られたらいい ・子・孫が顔を出す ・子供と同居できないか考えてみる ・子供達になるべく来てもらうようにする ・子ども達に現在の状況をきちんと伝える ・長男か、長女と一緒に住めないか
夫婦で協力すること		<ul style="list-style-type: none"> ・普段から転倒しないように気をつける ・体を少しずつ動かすよう手助けする ・散歩等一緒にする ・夫 役割をみつめる(家の中) ・夫が少しでも意欲的になれることが何かないか ・夫 日記をつける(生活にメリハリ) ・ぼーとしないうような事をこちらから働きかける ・人の集まる行事に参加するように心がける ・自宅にこもらずなるべく外に出る(人の手を借りて) ・行事があったら誘ってみる ・夫 老人の集まりに参加する ・暇をうたったり自分の好きなことをする ・趣味のグループに入る

10 松林地区

日時 平成22年2月21日(日) 19:00~21:00

会場 松林ケアセンター

出席者 地区 25名 自治会連合会所属 6名
 地区社会福祉協議会所属 5名
 民生委員児童委員協議会所属 8名
 当日参加 6名
 行政等 9名 茅ヶ崎市保健福祉部 6名
 地域包括支援センター青空 2名
 茅ヶ崎市社会福祉協議会 1名



概要 被害妄想のある50代単身の女性Aと隣人B夫婦、民生委員C等との関わりについての事例を検討。5グループから検討結果を発表。

グループ	大見出し	小見出し	出された意見・アイデア
1	地域 隣人とふれあい	Bさんとの関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・隣人に気楽に相談する様に心がける ・Bさんに対して孤立しないように話しかける ・Bさんが盗んだといわれているが近所の人とは違おうと理解する ・Bさん夫婦の地域での居場所をつくる ・Bさんをミニサロンに招待する ・ミニサロンで気軽にしゃべるようにする ・犬の散歩コースをA Bさんの近くにしてもらう ・近所の人にもBさんのことを理解してもらう ・自治会での行事に誘う(AもBも)
		Aさんとの関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ふれあいセンターと一緒に遊びに行く ・Aさんの話をよく聞いてあげる ・Aさんは一人暮らしなので日常生活の事を話しあう ・Aさんに折にふれて声をかけて顔を知ってもらう ・日頃からお隣さんと会話をする ・Aさんを地域のサロンに誘う ・Aさんと一緒にお茶、食事を一緒にする ・Aさんを地域のサロンに誘うミニサロン等に誘う ・おいしいものを一緒に食べる ・友達をつくらせること ・単身でさみしいのではないか ・Aさんの家に行って友達になる
	民生委員		<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員に相談に乗ってもらう
	病気		<ul style="list-style-type: none"> ・被害妄想ではないか

			<ul style="list-style-type: none"> ・ Aさんは精神病ではないか ・ Aさんに折にふれて声をかけて顔を知ってもらう。治療が必要かもしれない 精神科？ ・ 病気だと思うので相談に行くよう努める ・ 一人暮らしで淋しいのでは 話し相手が必要 ・ 家にこもりがちの人は視野が狭い ・ 親戚、親族の人に病気についての相談をしてもらう
	行政		<ul style="list-style-type: none"> ・ Aさんに対して経済的な助けが必要かもしれない ・ 施設相談員から母親が入所当時の様子を聴取してみる ・ 保健所に訪問した時の様子を聴取する ・ 以前かかわった施設に相談してみる ・ Aさんの病気に関する対処についてケースカンファレンスをもつ（保健所、行政、地域包括）
	おまわりさん		<ul style="list-style-type: none"> ・ 警察の住民相談室に相談する ・ おまわりさんに見廻りを願う
2	Aさんのこと		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の行事にAさんを誘ってみる ・ Aさんにサークル活動をすすめる ・ Aさんが地域のイベントに参加できるようにする為にどうするか ・ Aさんから話を聞く ・ Aさんが信頼する人は近所にいないか？ ・ Aさんと面談を考える必要あり ・ Aさんの近所づきあいは？
	ご近所		<ul style="list-style-type: none"> ・ 見守る ・ 近所に様子をきく
	Bさんのこと		<ul style="list-style-type: none"> ・ Bさんの話を聞く ・ BさんとC民生委員とは日頃のつき合いはあるか？ ・ Bさん夫婦に話しを聞きに行く
	関係機関		<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関に相談する ・ 包括の担当の人に相談（情報交換）する ・ 地域包括って解決できるの？
3	Aさん、Bさんの幸せのため私達ができること	本人（Aさん）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活にご不便がありますか ・ 日常生活での困りごと ・ Aさんの言い分をとにかく聞くようにする <Aさんに現状の状態を聞きとる> ・ Bさんとの日常のお付き合いは？（こうなる前まで） ・ 家族の状況 ・ 田舎はどこですか？ ・ 母親はどんな人だったですか？ ・ お子さんがいますか？ ・ ずーっと一人暮らしですか？ ・ どんな趣味がありますか？ ・ お知り合いはいますか？ ・ 普段かかわりのある人はいるの？ ・ 何か病気したことありますか？ ・ かかりつけの先生はいますか？ ・ 地域包括センターをご存じですか ・ 包括センターAさんをどの暗い知っているの（生前の母の関連で） ・ Aさんは独居なので民生委員が先ず安否確認を兼ねて伺い、少しでもAさんと親しい話しをする中からBさんに対しての思いも聞き出す ・ AさんにBさんの問題点を聞く ・ 近所で困った話しはない？（ゴミ出しとか）
		Bさん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分でやろう ・ Bさんの所へ行きAさんの状況を聞く ・ Bさんが解決する方法を見出す
		民生委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ A本人サポート ・ Bさんのサポート
		その他関連部署	<ul style="list-style-type: none"> 自治会 社協 包括支援センター 市役所 警察

4	Aさんに対して	<ul style="list-style-type: none"> ・真剣に本人の考え方を聞いてあげる（A，B共に） ・Aさんに声かけ ・Aさんと話しをしてみる ・Bさんの話だけでなくAさんの話を聞くこと ・Aさん本人にお手伝いしたできることはあるか聞く ・Aさんの情報がないのでどういう人が分からないのでAさんの情報を集める
	Bさんに対して （自治会も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・弁護士に相談する ・気の毒なBさんの話しを聞いてあげる ・Bさんには近所で見守っていることを伝える ・近所で見守る。理解する ・自治会長相談する ・自治会の組長さんがAさんの事をもっと知ってほしい
	法的機関に対して	<ul style="list-style-type: none"> ・保健所に確認する ・AさんとBさんの話しをよくきいてやる。そして保健所と相談する ・社会福祉協議会にどんなサポートがあるか聞いてみる ・ボランティアセンターに相談しサポートできることがないか聞いてみる ・市役所の高齢福祉課に相談する ・包括支援センターに相談する
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・物がなくなったというのは認知症の始まり。病院に相談して本人の治療を根本的に直すこと ・精神的におかしいならそれ相応の対応があると思うし病院に行った方が良くと思う
5	Bさん	<ul style="list-style-type: none"> ・Bさんへのクレームの内容を聞く ・Aさんの精神状態を探る
	原因	<ul style="list-style-type: none"> ・施設へのクレームとBさんに対する言葉に共通点はないか ・Aさんが施設へどのようなクレームをつけたか（内容） ・AさんとBさんの間で以前トラブルはなかったか ・Aさんの母親が入所していた施設に相談する ・Aさんの性格を把握する方法はあるのか ・Aさん宅を民生委員、包括センター、自治会長で訪問
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・保健所に再度相談する ・保健所の保健部が「一人暮らしの方の訪問」ということで定期訪問する ・時間をかけAさんに必要な情報を伝えていく ・一番Aさんが受け入れる人がAさんの家に訪問し話しを聞く ・Aさんの家族状況をつかむことができればよい ・市役所へ連絡（相談）しておく ・地域包括・民生委員・保健所・近所の人が集り情報交換する ・第三者（行政）を入れてAさんとBさんで話しをしてみる ・Aさんの知人・友人を包括紹介する
	地域	<ul style="list-style-type: none"> ・Aさんに声かけをする ・Aさんの話を聞く ・となり近所と協力してAさんと話しをするようにする ・近所のひとはAさんに対しどう思っているか ・Aさんと話したことがある近所の人がいるか ・Bさん夫婦の話を聞く ・Bさん夫婦の悩みを聞く ・Bさん夫婦の話し相手になる ・Bさんの被害の程度を把握 ・なるべく大きくしないで話し合う
	解決方法	<ul style="list-style-type: none"> ・解決する為のリターンを決める必要あり ・民生委員はA宅へ安否確認を兼ねて訪問する ・民生委員が両家の状況を聞く ・自治会長へ相談する ・Aさんの親族や友達はあるのか ・Aさんの知人、友人を探す ・Bさん夫婦を地域の行事に誘ってみる ・自治会等で議題にして検討したらどうか ・自治会長と民生委員でA宅、B宅を訪問

		<ul style="list-style-type: none"> ・ Aさんの知人・友人と一緒に訪問する ・ 自治会の催し等にAさんを誘う ・ 家族介護教室に誘ってみる
--	--	---

1.1 鶴嶺西地区

日時 平成22年3月6日(土) 13:30~15:30

会場 鶴嶺公民館

出席者 地区 17名
 自治会連合会所属 8名
 地区社会福祉協議会所属 4名
 民生委員児童委員協議会所属 5名
 行政等 8名
 茅ヶ崎市保健福祉部 6名
 地域包括支援センターみどり 1名
 茅ヶ崎市社会福祉協議会 1名



概要 仕事勤めで定年後、家に引きこもりがちな男性(70代)への地域の関わりについての事例を検討。5グループから検討結果を発表。

グループ	大見出し	小見出し	出された意見・アイデア
1	地域の力は本人の力を引きだす	地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ おかずを作って余った時は届ける ・ 通る度に声をかける ・ 町で会ったら話を聞いてみる ・ 自分の時間の許す範囲で現地に行き本人の生活している状況を把握する ・ ご近所に様子を見てもらう
		民生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員にまかせる ・ 民生委員に相談する ・ 時々訪問する ・ 近くを通った時様子を見る
		行政・包括	<ul style="list-style-type: none"> ・ その役職で確認するが立場でなかったら役職に連絡を取ったり包括支援センターに連絡する ・ 地域自治会及び民生委員と連絡をとり合い自分自身も注意して見守る ・ 地域包括支援センターに確認・相談する ・ 包括・役所他に相談する ・ 一緒に物を片づける ・ 介護保険を申請する ・ うつの症状。通院、内服していて改善されているか確認 ・ うつということで生活状況の確認のため訪問
		本人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昔の会社の仲間を家に呼んでくる ・ 遠方の長女に相談してみる ・ 本人のやれそうな事をやらせる ・ 好きなものをすすめる ・ 本人の趣味を聞く ・ 長女の力を借りる(もう少し来る回数を多くする) ・ 本人に声かけをして顔なじみになる ・ 趣味の集りを紹介する
2	行政・制度	家族	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一度一緒に医者に行き状況をつかむ ・ 本人にとって困っている事をまず聞いてみる ・ 会話を。時間5~15分位作る努力をする(毎日)
		行政・制度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包括支援センターに相談(民生委員) ・ 介護保険の申請 ・ 給食サービスの理由 ・ 介護認定を受けるようにする
		家族	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長男若しくは長女に父親の状況を伝える ・ 長男と話す ・ 会社に相談か転職 ・ 長男とも会って話ができるようにする
		手伝い	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミ声かけの協力者を募る ・ ゴミ出しをきっかけに声かけをする ・ ゴミ出し手伝い ・ 地区VC庭の手入れ ・ 庭の手入れを手伝う
	気づき・声かけ		<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人の困りごとを傾聴 ・ 本人から日頃思っていることの話をお聴く ・ 顔見知りになるように何回も伺う

		<ul style="list-style-type: none"> ・なにげなく声かけネットワーク ・ご近所の声かけ ・連絡の方法を話し合う ・見守る ・自治会に入っているか確認 ・本人の気持ちに寄り添う事から信頼関係を持つ ・本人と話す
	誘い	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンへの参加を促す ・地域にはいろいろのサロンや、ボランティアセンターがあるので顔を出すようにすすめる ・一人で行動を起こすのは大変なので、一緒にサロンに行き行ってあげる ・公民館の写真サークルを紹介 ・趣味の写真などをもう一度引き出すきっかけづくり ・本人ができることを少しずつ関心を持たせる ・写真のグループを紹介する ・趣味を活かしてもらおう（写真） ・暖かく陽気もよくなったので散歩など促す ・転倒予防教室に誘う
4	近所	<ul style="list-style-type: none"> ・「見守り」を行い、一声運動をする ・本人が何に興味を持っているか聞く ・声かけを継続的に行う（近所での連携） ・たまに訪問して話をする ・道ですれちがった時挨拶する ・家の外のゴミ拾い ・趣味の写真の話。実際見に行く ・ゴミ出し等の協力をして距離を縮めていく ・食事を作ってあげる ・掃除をしてあげる ・時々家庭訪問し話相手になる ・庭の草木の手入れ ・あいさつから始め日頃から仲良く付き合う
	地域	<ul style="list-style-type: none"> ・行事に誘う（本人）自治会等 ・高齢者の昼食会等に誘い一緒に会場に行く ・今回老人会が設立するので高齢者同士の話し合いの場を作る ・要望事項に対しボラセンへ依頼する
	家族・本人	<ul style="list-style-type: none"> ・長男との話し合い（現状の改善策） ・まず本人の気持ちを聞き出し対応を考える ・長男とのコミュニケーションが必要 ・長男を行事に誘う ・休日は家族、息子がいるようにして会話・家事をする ・長女に来てもらう ・長女、長男への状況説明を行う ・長男 家族と話し合い改善策を考える ・長男に父親と交流するよう依頼
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域包括支援センターみどり」に相談する（介護保険申請） ・「社協」への相談 ・「安心まごころ事業」の提案 ・「福祉障害課」SOSネットワークに相談 ・家の片付けをヘルパーさんに依頼する
	地域民生・児童委員	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員に相談する
5	個人の生活？	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の人生 ・何もしない ・地域（民生委員）は個人の人生にどこまでかかわるのか ・この事例は誰が相談してきたのか
	自分ならどうするか！	<ul style="list-style-type: none"> ・人はただ生きていけばいいのか ・本人は何ができなくてうつになったのか ・地域との関係を持ちたくない人がいる ・問題意識を持つ ・地縁のつながりを強める ・趣味、地域活動に参加する ・各団体の連携（行政も含め）

		<ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有化 ・スーパーに行く以外の外出できる方法をお知らせする ・一緒に買い物に行く ・スーパーで会った時に声をかける ・見守り ・近隣所 ・向う三軒両隣はどのような状態なのか。夜のつき合いをする ・趣味の写真があったのでその関係の人とコンタクトはとれないか
地域のとり組み		<ul style="list-style-type: none"> ・回覧板を持って行く時に声をかける ・あいさつの励行 ・近所の人への声かけ ・自治会役員と民生委員が実態を把握できたら対応について相談する ・会話の中から趣味、好きな事等を聞き、誘ってみる ・妻の知人と共に訪問する
家族へのアプローチ		<ul style="list-style-type: none"> ・娘さんに協力を求める ・家族の考え方（父をどうしたいか） ・長男にコンタクトをとる ・長男と話をする ・息子さんに月1回の診察時同席 ・息子さんを見かけたらお父さんの事が気になると伝える ・長男の思いを聞く ・父の人生はこんなものと長女は思っている
サービスの利用		<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の方に声をかけてもらう ・民生委員を受け入れてくれる様子なので訪問回数をもう少しとる ・電話を定期的にかける関係ができれば地域サービスにお誘いする ・地域包括支援センターみどりに声をかけてもらう ・地域包括支援センターに相談する ・自治会の行事に誘ってもらう ・地域サロンミニディなどの情報を民生委員に伝えてもらう ・つるみね西ボランティアセンターに相談して庭の草取りをしてもらう ・給食サービス利用について包括から伝えてもらう ・包括支援センターに要介護認定申請について説明してもらう

* 3グループは、設置しませんでした。

1.2 海岸地区

日時 平成22年3月14日(日) 14:00~16:00

会場 福祉会館

出席者 地区 21名 自治会連合会所属 5名
 地区社会福祉協議会所属 4名
 民生委員児童委員協議会所属 12名
 行政等 9名 茅ヶ崎市保健福祉部 6名
 地域包括支援センターあい 2名
 茅ヶ崎市社会福祉協議会 1名

概要 かつて、自治会など地域活動に積極的に参加していたが、1年前に夫を亡くし、うつ症状出現、転倒による骨折後、外出しなくなってしまった70代の女性への関わりについての事例を検討。5グループから検討結果を発表。



グループ	大見出し	小見出し	出された意見・アイデア
1	本人		<ul style="list-style-type: none"> ・相手のできることはしてもらう ・何をしてもらいたいか話を聞く ・本人のやりたいことを聞き、サークル等に結びつける ・長女、長男の様子について本人より聞く。手助けしてくれるかも
	近所	顔見知り	<ul style="list-style-type: none"> ・声かけ ・元気な時、声かけ ・困っている人への声かけをする

		<ul style="list-style-type: none"> ・薬を飲んだか声をかける ・顔見知りの方に話しかけてもらう ・あいさつ ・あいさつ、声をかける ・不安に思っていることについて話を聞く
	友人	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り ・見守る ・安否確認のための声かけをする ・元気であるか回覧板を届けたりしながら顔を見る ・ゴミ出しの手伝いをする ・地域パトロールをする ・おかずを差し入れ(近所の人)
	誰でもできる	<ul style="list-style-type: none"> ・家の気配に気を配る ・外から様子をうかがう ・雨戸が開くかどうかの確認 ・戸締まりをしながら見守る
	話しあい	<ul style="list-style-type: none"> ・何か変化があったときに協力することを伝えておく ・友達がいるか確認をし、いれば友達を中心に話し友達になる ・どこまでお手伝いしたらよいか考える ・日常からのつきあいが大切 ・常日頃の近所のつきあいを大切にする
	地域団体	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に誘う ・日帰りの旅行に誘う(老人会) ・老人会の旅行に誘ってみる
	サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・給食(宅配弁当)を利用する
2	家族	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の長男長女に状況を話す(伝える) ・長女にヘルパーの来ない日に来てもらう(家族の協力) ・長女と連絡を緊密に取る ・子供さん方とも面会出来ていると何かの時安心
	隣り近所	<ul style="list-style-type: none"> ・声かけをする。見かけたときには積極的にあいさつする ・近所の人に声かけをしてもらう ・困ったことはないか声かけをする ・出来るだけお顔を見る。話し相手をする ・お料理を多く作ったときなどお持ちする ・地域の高齢者の会に誘う ・以前の老人会仲間と連絡をとる。声をかけてもらう ・(民間の)自費ヘルパー支援を頼む(食事作り)
	自治会	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会で名前・住所を理解しておく ・かつての自治会の仲間に声をかけてもらう(話し相手) ・資源ゴミ燃えないゴミ出し手伝い ・地区のゴミ出しの係の人が手伝う ・自宅のカギを誰が持っているか聞いておく ・自治会の行事に誘う(旅行とか) ・防災委員の人に連絡しておく ・災害時要援護者制度へ登録を勧める ・緊急通報システムの導入を勧める
	民生委員	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員に見守りをお願いする ・本人の話を聴く(民生委員) ・本人と知り合う。まず民生委員さんに訪問してもらう ・民生委員の人に時々来て様子を見てもらう ・民生委員が何度も行き、親しくなるようにする ・民生委員とヘルパーさんと話し合い、様子を時々きく ・民生委員が訪問し、状況をきく。お友達が近くにいる場合は、名前をきく ・近隣在住の長女と連絡をとっておく(民生委員)
	福祉関係	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協の活動に誘う ・地区の(社協)活動に参加を呼びかける ・社協のお食事会などに誘う(あれば) ・社協の話し相手ボランティアを依頼する ・訪問介護、通所以外の時、話しかけをする ・包括支援センターの人に定期的に来てもらう ・包括支援センターへ最近の状況を話しておく ・長女は近隣市に在住しているので包括支援センターから長女に連絡してどうしたらよいか聞く

			<ul style="list-style-type: none"> ・給食サービスを申し込む ・市のまごころ収集に登録してゴミ出しを手伝ってもら ・保健福祉事務所の保健師の訪問(体調確認) ・看護師に見守りを頼む ・通所医師に時々見回ってもら
3	家族 地域		<ul style="list-style-type: none"> ・家族(子ども)とのコンタクト(民生委員) ・あいさつ、声かけ(ゴミの日など) ・近所の方に見守っていただき、声かけをしていただく ・回覧を手渡す ・老人会の方に訪問していただく ・朝、適当な時間をみて訪問する ・自分が買い物に行くときに声かけをする ・食事を持っていく ・燃やせるゴミ以外のゴミ捨てを協力を ・隣近所の方が注意していつも意識を持つことだと思う ・近所の方の協力が必要となる。コミュニケーションを取る事 ・近くに要支援者がいるが、民生委員に任せているので自分が訪問することはしていないがどうか。 ・自分は自治会長をしているが、要支援者の訪問は可能か ・自治会行事に出るよう近所の人をサポートが必要 ・地域単位でお話できる場所(サロン) ・本人の話を傾聴(健康のこと)
	サービス		<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協の体操に誘う ・転倒予防教室への誘い ・ミニデイ・サロンへの誘い ・老人会の旅行を呼びかける ・給食サービスの利用を促す
	行政		<ul style="list-style-type: none"> ・緊急通報システムを提示してみる ・不安感が強く感じるとのこと、緊急ベルの取り付けで具合の悪いときに対応してくれる
4	家族		<ul style="list-style-type: none"> ・子供さんたちは何を望んでいるのですか？ ・子どもと話す機会をつくる ・娘さんに定期的に訪問し状況把握 ・ご家族にできるだけ接してもら(週1回ぐらいは訪問) ・長男・長女による毎日の連絡 ・子どもたちが1日1回は電話で会話をし声によって判断
	地域		<ul style="list-style-type: none"> ・自宅での生活はむりだと思えます ・もし近所であれば見守りをしていく ・できる限り傾聴してあげる ・近所で誘いあって順番に訪問する ・ゴミ収集日に声をかける ・ゴミ出しのお手伝いをする(もしご近所であるなら) ・もし親しい間柄であれば、救急車を呼ぶ前に自分の所に電話をしてくれるように約束しておく ・もしご近所で近しい間柄であれば、お食事を時々持って行ってさし上げる ・民生委員が直接ご家族のお話をきく ・民生委員も訪問回数を増やす。ご家族との連絡 ・民生委員として長女の方にお母様の状況をよくお話しし、可能な限り一緒にすごされることを勧める
	レク活動		<ul style="list-style-type: none"> ・ご近所の方がお茶飲み会にお誘いする ・老人会の方がこの女性の家に集まってお茶を飲む ・気分をまぎらすグループへ参加 ・車いすを使ってもいいから趣味の会に参加 ・生きがい友の会への勸奨(社協)
	行政		<ul style="list-style-type: none"> ・災害時要援護者制度などに登録。地域支援者の方に声かけをお願いします ・配食サービス利用(昼600円) ・緊急通報システムの利用(救急車の前に) ・地域包括支援センターと話し合っご近所でできることを確認する ・地域包括支援センターが中心となり、親族、主治医、民生委員、自治会、介護サービス担当者が集まり、検討会を実施する

5	家族	<ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスの回数を増やす。週2～3回に ・本人が求めている事を聞き出す ・本人の趣味(話が弾む事) ・家族の同意がなければ始まらない ・親族とのコンタクト ・家族の同意のもと支援の方法を話し合う ・長女・長男の方と連絡。趣味、生活の様子、困っていること ・長男、長女および包括支援センターとコンタクトを取り、必要な支援を考える
	ご近所	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の方が声かける ・友人・地域の方の訪問 ・お付き合いのあった近所の方に訪ねてもらう ・友人に声かけて訪問してもらう ・何らかのついでに近所の方や民生委員さんが声かけ。回覧板・ゴミの日 ・民生委員の訪問 ・近所の方より情報を得る ・友人をさがしてその人から情報を得る ・不安なときは誰かに相談できるように(友人・民生委員) ・何事でも対話の機会をもつ ・食事を一緒に食べる ・支援センターとのコンタクト
	あると良いもの	<ul style="list-style-type: none"> ・気楽に楽しめる場をつくる ・包括支援センターと民生委員の連携 ・地区ボランティアセンター